

# 授業科目シラバス

<2025年版>

函館厚生院看護専門学校

# シラバス

シラバスとはその年度に開講される科目について学生が何をどのように学べばよいかを示したものです。

単位の取得は、授業を受けるだけでなく、各自が必要な予習復習を自主的に行なうことを前提としています。シラバスの内容をよく確認し学びを深めてください。

具体的、あるいは詳細な学習内容、方法について、別途、授業の中で担当教員から提示されることもあります。

## 【科目のねらい】【授業の目標】

卒業時の到達目標に沿った各授業のねらい・目標を示しています。

## 【DP との対応】

その科目が本校のどのディプロマ・ポリシーに対応しているか示しています。

最大で3つ示しており、◎として示したものが主として対応するものになっています。

## 【授業内容・授業方法・学習課題】

授業回ごとの学習内容、方法、課題など、授業での学習の進め方を示しています。

## 【評価方法】

学習内容によって成績評価の仕方は異なります。

複数の方法を組み合わせて成績評価を行なう科目もあります。

## 【教科書・参考図書・参考文献】

授業および学習のための教材を示しています。教科書は提示されているものを必ず準備して授業に臨んでください。

## 【備考または学生への連絡】

上記内容の他に講師からの連絡や注意を払ってもらいたいことを示しています。

## 目 次

＜ 基 礎 分 野 ＞	
アカデミックスキル	1
基礎セミナー	2
看護物理学	3
情報科学	4
統計学入門	5
心理学	6
教育学	7
現代社会学	8
法と人権	9
生活科学	10
地域と文化	11
人間関係論	12
家族論	13
看護のための English skill	14
健康と運動	15
＜ 専 門 基 礎 分 野 ＞	
形態機能学総論	16
形態機能学各論Ⅰ	17
形態機能学各論Ⅱ	18
形態機能学各論Ⅲ	19
栄養学	20
衛生学	21
疾病と治療Ⅰ	22
疾病と治療Ⅱ	23
疾病と治療Ⅲ	24
疾病と治療Ⅳ	25
疾病と治療Ⅴ	26
疾病と治療Ⅵ	27
病態生理学	28
治療論Ⅰ	29
治療論Ⅱ	30
薬理学	31
微生物学	32
保健医療論	33
多職種連携活動論	34
公衆衛生学	35
社会福祉	36
看護と法律	37
関係法規	38

< 専門分野 >	
基礎看護学概論	39
看護倫理	40
看護援助に共通する技術	41
基礎看護学方法論Ⅰ	42
基礎看護学方法論Ⅱ	43
基礎看護学方法論Ⅲ	44
基礎看護学方法論Ⅳ	45
基礎看護学方法論Ⅴ	46
基礎看護学方法論Ⅵ	47
基礎看護学方法論Ⅶ	48
基礎看護学方法論Ⅷ	49
基礎看護技術の統合	50
臨床看護学総論	51
地域・在宅看護論Ⅰ	52
地域・在宅看護論Ⅱ	53
地域・在宅看護論Ⅲ	54
地域・在宅看護論Ⅳ	55
地域・在宅看護論Ⅴ	56
地域・在宅看護論Ⅵ	57
成人看護学概論	58
成人看護学方法論Ⅰ	59
成人看護学方法論Ⅱ	60
成人看護学方法論Ⅲ	61
成人看護学方法論Ⅳ	62
成人看護学方法論Ⅴ	63
老年看護学概論	64
老年看護学方法論Ⅰ	65
老年看護学方法論Ⅱ	66
老年看護学方法論Ⅲ	67
小児看護学概論	68
小児看護学方法論Ⅰ	69
小児看護学方法論Ⅱ	70
小児看護学方法論Ⅲ	71
母性看護学概論	72
母性看護学方法論Ⅰ	73
母性看護学方法論Ⅱ	74
母性看護学方法論Ⅲ	75

精神看護学概論	76
精神看護学方法論Ⅰ	77
精神看護学方法論Ⅱ	78
精神看護学方法論Ⅲ	79
医療安全	80
看護研究Ⅰ	81
看護研究Ⅱ	82
看護管理	83
災害看護・国際看護	84
看護リフレクションⅠ	85
看護リフレクションⅡ	86
看護技術の総合評価Ⅰ	87
看護技術の総合評価Ⅱ	88

< 基礎分野 >

アカデミック・スキル						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	30 時間	1 年次前期	中村 佳子	無		
科目のねらい						
正しい思考の形式および法則から論理的なものの考え方を学ぶことにより、看護学生に必要とされる論理的思考および文章表現、適切な自己表現等の学習スキルを身につけ、課題解決能力を形成することを目指す。						
授業の目標						
1) 論理学の基礎を学んだうえで、看護を学ぶために必要な「論理的思考」、「聴く力」、「話す力」、「読む力」、「書く力」の基本を身につける。 2) 課題解決に必要なプロセスを理解し、実践に役立てることができる。						
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="checkbox"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="checkbox"/>	倫理的姿勢
	<input type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input checked="" type="checkbox"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	オリエンテーション、「アカデミック・スキル」について		講義 演習			
2	正しい日本語を使う（正確な表現）					
3	敬語を使う					
4	メモをとる（要点をおさえて記録する・伝える）					
5	相手がわかる説明をする					
6	ディベート					
7	レポートの書き方①（書き言葉・簡潔に書く）					
8	レポートの書き方②（構成・客観性・ルール）					
9	レポートの書き方③（演習）					
10	プレゼンテーションについて					
11	プレゼンテーション演習①					
12	プレゼンテーション演習②					
13	プレゼンテーション演習③					
14	プレゼンテーション演習④					
15	プレゼンテーション演習⑤					
評価方法						
1) レポート 50% 2) プレゼンテーション 50%						
教科書						
特に定めない。講義時に適宜資料を配布する。						
参考図書・参考文献						
『看護系学生のための日本語表現トレーニング』三省堂、『ナースのためのレポートの書き方』中央法規、『看護学生のためのレポート書き方教室』照林社、『看護師のための語彙力・対話力』日本医療企画						
備考または学生への連絡						
ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。						

基礎セミナー					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	1 年次前期	専任教員・外部講師	有	
科目のねらい					
看護学生として必要な学習方法や社会人基礎力について理解する。看護学校の「学修」の指針を理解し、医療専門資格者となるため、学修目標・計画を立てられるよう主体的な学習姿勢を身につける。					
授業の目標					
1) 看護学校で学習する為に必要な「聴く力」「話す力」「読む力」「書く力」「調べる力」の基本を身につける。 2) 社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」、「倫理」)の必要性を理解する。 3) 目指すべき看護師になるために、これまでの自分を振り返り、今後の自分に求められる理想像を考える。					
DP との対応	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	課題解決能力、根拠に基づいた実践力		保健医療福祉チームにおける連携力	<input checked="" type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	看護とは何か、看護師になるということ 看護師に必要な力 看護学校での学びと生活		講義		
2	学生生活と健康管理 ・メンタルヘルス(感情をコントロールするスキル) ・学生生活で遭遇するストレスと対処法		学校カウンセラーによる担当		
3	看護職に必要な力～社会人基礎力 「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」、「倫理」 ・より良いコミュニケーションのための正しい日本語 ・わかりやすい話し方と聞き方、報告・連絡・相談 ・上手なメモのとり方 ・情報収集の仕方、考え方 ・グループワーク、メンバーシップ、リーダーシップ		講義 個人ワーク グループワーク	個人ワーク	
4	看護学生の勉強について ・何のために学ぶのか ・高校との学びの違い ・カリキュラム構造を知る ・講義・演習・実習の学び方				
5	看護学校での学び、学生生活について ・学習習慣を身につける ・教科書、資料の読み方 ・ノートの取り方 ・定期テストの取り組み・国家試験の意味				
6	看護学生の生活について ・勉強と生活の両立 ・生活リズムを整える ・マナーを身に付ける				
7	・学修する上で必要なスキルや態度とは ・目指す看護師になるためにどのように学習していくか ・対人関係/人間関係について ・同級生 教員との関係 ・患者指導者との関係				
評価方法					
レポート 100%					
教科書					
看護学生の勉強と生活まるごとナビ 自律的に過ごすための 23 のレッスン 日本看護協会					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					
看護学校の勉強の意義と、看護師として求められる知識・技術の必要性とその方法や根拠を学びます。自身の力を伸ばす為に他者からの指導を効果的に活用して成長できるよう主体的学習姿勢を深めてください。					

看護物理学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	外部講師	無
科目のねらい				
生命現象および看護技術を自然科学の視点から学び、基礎的知識を身につけ、看護に必要な学習につなげる。				
授業の目標				
1) 物理学の基礎を学ぶ。 2) 物理と看護の関連性について学ぶ。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	身体ケアに関する物理学 力学の基礎 (単位系と力の単位)		講義	
2	身体ケアに関する物理学 力のつり合い (移動動作に必要な力の加減)			
3	身体ケアに関する物理学 トルクの原理 (体位変換に役立つトルクの知識)			
4	身体ケアに関する物理学 運動量 (撃力と骨折) エネルギー (仕事とエネルギー)			
5	身体ケアに関する物理学 作用・反作用・摩擦			
6	治療・処置に関する物理学 圧力の基礎知識 (血圧、酸素ボンベ、低圧持続吸引、サイフォンの原理) 空気の圧力			
7	電磁波と放射線 紫外線、赤外線			
評価方法				
筆記試験 100%				
教科書				
ベッドサイドを科学する 学研 2021				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

情報科学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次前期	津金 孝行	無
科目のねらい				
<p>情報という言葉の定義およびその定義に基づいた医療における情報の意味について講義する。  また、ICT（情報と通信の技術）の医療への活用で必要となる理論と用語の説明を行う。  併せて、統計処理を中心としたパーソナルコンピュータの基本操作を学ぶ。</p>				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャノン、ウィーナーによる情報の定義を理解し、その定義に従って医療における情報の役割を説明できるようにする。</li> <li>・ICT を活用する際に必要となる基礎的な理論と用語を理解し説明できるようにする。</li> <li>・情報倫理について理解し説明できるようにする。</li> <li>・表計算ソフトの基礎を理解し、活用できるようにする。</li> </ul>				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	◎ 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	情報の定義と医療における情報の意味1（シャノン） キーボード操作の説明と演習		理論の講義とコンピュータの実習をあわせて行い、ICTの活用について、理解を深める。	(1) 医療における情報の意味とその役割を常に意識し、看護実務を情報という視点で捉えるようにして欲しい。  (2) 医療の現場では、PC を用いることが多い。その際、キーボード操作を円滑に行えることが求められる。そのため、毎日、練習用ソフトで、タッチタイピングの練習をして欲しい。
2	情報の定義と医療における情報の意味2（ウィーナー） コンピュータシステムの構成			
3	医療現場で使われている情報システム、文字・画像の表現			
4	情報倫理と情報化社会			
5	表計算ソフトによる基本的な集計処理演習			
6	表計算ソフトを用いた、基礎的な統計（平均、標準偏差、相関係数、回帰分析）			
7	表計算ソフトによる統計処理演習			
評価方法				
筆記試験、授業中の演習、タッチタイピングの成績（100%）				
教科書				
系統看護学講座(別巻) 看護情報学 医学書院(電子教科書)				
参考図書・参考文献				
坪井博之『このとおりやればすぐできる ナースのためのデータ処理』技術評論社（2011）				
備考または学生への連絡				
キーボード操作練習用ソフトを活用し、毎日 15～20 分程度、キーボード操作の練習を自主的に行って欲しい。キーボード操作の試験を授業の最終日に行う。				

統計学入門						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	中島 正美	無		
科目のねらい						
統計的なものの考え方及び活用方法を学ぶ。						
授業の目標						
統計や検定に関する基礎的な知識と処理ができる。						
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="checkbox"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="checkbox"/>	倫理的姿勢
	<input checked="" type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="checkbox"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	統計学とは 統計や検定に関する基礎的な知識と処理		講義およびコンピューターによる実習			
2	平均値と標準偏差					
3	正規分布について					
4	検定について①					
5	検定について②					
6	検定について③					
7	相関係数について					
評価方法						
筆記試験 (100%)						
教科書						
特に定めない。適宜、資料を配布する。						
参考図書・参考文献						
系統看護学講座(別巻) 看護情報学 医学書院(電子教科書)						
備考または学生への連絡						

心 理 学					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	1 年次後期	諏訪 麻依子	有	
科目のねらい					
心理学は人間の心と行動を対象とする学問です。学問としての心理学についての基本的事項について概説し、心理学についての正確な知識をもつことをねらいとします。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学に関する基本的事項の理解・心の働きについての学問的なものの見方、理学的な研究方法の理解、人間のさまざまな心の働きについて興味関心をもつことができるようになること。</li> <li>・心理学的な視点から生活の中で経験する日常的な出来事を考えることができるようになること。</li> <li>・心理学の知識を日常生活の問題解決のきっかけとして役立てるようになること。</li> </ul>					
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	○	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力		保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	第1章 心理学とは①		講義	適宜提示します	
2	第1章 心理学とは②／第2章 感覚と知覚①				
3	第2章 感覚と知覚②				
4	第3章 記憶				
5	第4章 思考・言語・知能				
6	第5章 学習				
7	第6章 感情と動機づけ				
8	第7章 性格とパーソナリティ①				
9	第7章 性格とパーソナリティ②				
10	第8章 社会と集団①				
11	第8章 社会と集団②				
12	第9章 発達①				
13	第9章 発達②／第10章 心理臨床①				
14	第10章 心理臨床②				
15	第11章 医療・看護と心理 1h				
評価方法					
筆記試験 (100%)					
教科書					
系統看護学講座 心理学 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
参考図書は講義中に適宜紹介 資料はその都度配布					
備考または学生への連絡					
ワークシートを使用します。綴じるファイル等を用意してください。					

教育学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	奥田 秀巳	無
科目のねらい				
発達する存在としての人間を、教育との相互作用から学ぶ。				
授業の目標				
1) 教育が文化・社会の動態と人間の成長・発達に密接にかかわっていることを理解する。 2) 学生自身の今後の生涯学習において、自立した学習者として成長していく手がかりを得る。				
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	教育の意義 (1) 教育とは		講義	
2	教育の意義 (2) 教育活動の本質			
3	教育の構造と機能 (1) 教育の対象 (2) 教授			
4	教育の構造と機能 (3) 学びの場 (4) 教育目標、教育評価			
5	人間の成長と発達			
6	日本の文明化と教育			
7	学校教育と生涯教育 (1) 子どもと家庭、学校 (2) 大人の教育			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 教育学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

現代社会学					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	1 年次前期	伊藤 好一	無	
科目のねらい					
日本が抱える社会問題を認識し、日常生活から関心を持つとともに当事者意識を持つ。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的存在としての人間を理解する。</li> <li>・社会の仕組みを理解し、社会が抱える問題を認識する。</li> <li>・多様な視点から社会問題をとらえ考える。</li> </ul>					
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	○	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力		主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	オリエンテーション・日本社会の仕組み		講義を中心に行います。映像資料を視聴、講義の中で作業を行ってもらうこともあります。	予習は必要ありません。講義の中での気づきを大切に、日常生活における意識につなげてください。	
2	第1章 人間と社会				
3					
4					
5	第2章 家族				
6	第3章 地域社会				
7					
8	第4章 職業と職場集団				
9					
10	第5章 現代社会と現代文化				
11					
12	第6章 社会問題と政策的対応				
13	第7章 社会調査				
14					
15	現代における社会問題のまとめ (1h)				
評価方法					
筆記試験 (100%)					
教科書					
新体系 看護学全書 基礎科目 社会学 メヂカルフレド社 2022					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					

法と人権				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年前期	金 鉉善	無
科目のねらい				
人間社会の営みを律する規範の一つである「法」と「人権」について学ぶ。				
授業の目標				
人間社会における法の役割を理解する。 人権の歴史の中での法の発展を理解する。				
DP との対応	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	◎	倫理的姿勢
	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力		主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	法とは何か ～法とその他の規範～	授業内容を講義で説明し、最後にディスカッションを行うことで理解度を確認する。	それぞれのトピックに関連する新聞記事などをあらかじめ提示するので、読んでくること。	
2	法の種類 ～公法と私法の理解～			
3	公法とは ～憲法、刑法、訴訟法などの機能～			
4	私法とは ～市民相互の関係を規律する私法の一般法である「民法」～			
5	基本的人権とは ～人権の歴史～			
6	「表現の自由」と「プライバシー権」をめぐる法的争点			
7	「安楽死」をめぐる法的争点			
評価方法				
期末試験 80% 授業への積極性 20% 授業中での発言やディスカッションでの活動をもとに参加度を評価する。				
教科書				
毎回レジュメを配布する。 その他に新聞記事などの資料を適宜紹介する。				
参考図書・参考文献				
適宜紹介する。				
備考または学生への連絡				

生活科学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	関崎 聖子	有
科目のねらい				
日本人の生活様式を通じて、日常生活を構成している活動を客観的に捉え、生活を科学的に理解することを学ぶ。				
授業の目標				
現代社会における生活を科学的・総合的にとらえ、生活者の視点に立って問題を発見し、解決に向けての方策を考え、よりよい生活の創造を目指して生活を実践していく力を養う。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	【オリエンテーション】○科目の全体像「生活科学で学ぶもの」		講義 アクティブラーニング	各回とも教科書の該当箇所を読んでおく
2	【食生活①】○代謝と健康 ○食品成分と熱量 ○食事摂取基準			
3	【食生活②】○栄養バランスと日常の献立 ○6つの食品群 ○調理済み食品と外食の栄養価 ○食事バランスガイド			
4	【食生活③】○調理加工（タンパク質系・糖質系・植物性食品系） ○電子レンジと電磁調理器の利用・活用			
5	【食生活④】○食品の保存と管理			
6	【食生活⑤】○食生活の安全性と問題点 ○食習慣の問題点			
7	【食生活⑥】○日本及び世界の食糧事情 ○子どもの食と食育			
8	【衣生活①】○被服の原材料及び品質表示 ○被服の安全性			
9	【衣生活②】○被服の機能と被服文化 ○被服の管理			
10	【環境と生活】○日本の気候 ○災害と日本の自然環境他 【住生活①】○住まいと文化 ○住まいに求められる機能と特徴			
11	【住生活②】○安全で快適な住まい（年代や身体機能に基づいて） ○室内等生活環境改善の工夫 ○生活の変容と新しい住文化			
12	【各種エネルギーとその利用】○エネルギー資源の現状と対策 ○生活に利用されるエネルギー○環境と持続可能な循環型社会			
13	【消費生活①】○食品や生活用品の消費と各種消費問題			
14	【消費生活②】○契約販売にかかわる問題と消費者の権利			
15	【試験及び講義のまとめ】○よりよい家庭生活を目指して			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
生活科学 オーム社 2014				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
レジュメを綴る A4 ファイルを各自 1 冊用意する				

地域と文化				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	佐々木 馨	無
科目のねらい				
北海道の道南、函館市の気候や人柄、食文化や習慣などの生活様式を客観視することによって、自分の普通が他者にとって普通とは限らないことを理解する。そして自己の価値観だけでなく他者の異なる価値観も認められる思考を身につける。				
授業の目標				
北海道の中の道南地域、函館市の地域特性を理解し、地域、時代、環境などにより正しいこと、当たり前のことは不変ではないことを理解する。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	文化とは何か、地域とは何か		講義	
2	北海道の歴史概観			
3	みちのくと北海道の文化交流			
4	アイヌと和人の共存			
5	北海道の寺院建立			
6	松前藩の宗教政策			
7	キリスト教の受容と神社祭礼			
8	函館の日常と食生活			
9	函館の年中行事と行事食			
10	函館の人生儀礼と七夕文化			
11	人間と死生学			
12	日本人の生死観 一昔のいのち一			
13	日本人の生死観 一今のいのち一			
14	日本人の生死観の特色			
15	函館の地域特性についてのまとめ			
評価方法				
レポート評価 (100%)				
教科書				
アイヌと「日本」 山川出版社 2015				
参考図書・参考文献				
北海道の宗教と信仰 山川出版 2009、いのちの教育 北海道出版企画センター 2013 函館市史銭亀沢編 1998				
備考または学生への連絡				
ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。				

人間関係論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	今在 景子	無
科目のねらい				
人間関係に関する基礎理論をふまえ、医療現場での組織内の連携、患者と家族に対する支援のあり方と方法について学ぶ。				
授業の目標				
1. コミュニケーションや対人スキルの基礎を理論的に学び、演習を通じてその習得をはかる。 2. 人間関係の一般的原則・理論を、医療現場での実践に自ら応用できるようにする。				
DP との対応	看護の対象を統合的に捉える力	◎	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	課題解決能力、根拠に基づいた実践力		保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	人間関係論とは/社会的動物としての人間	講義		
2	自己認知/対人認知			
3	対人関係			
4	対人葛藤/社会的役割			
5	態度と態度変化			
6	攻撃行動/援助行動			
7	集団の特性			
8	集団での意思決定/リーダーシップ			
9	コミュニケーション			
10	カウンセリングと心理療法①			
11	カウンセリングと心理療法②			
12	コーチング/アサーティブコミュニケーション			
13	人付き合いのスキルを考える			
14	信頼関係をどのように構築するか			
15	試験、補足			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 人間関係論 医学書院 (電子教科書) 適宜プリントを併用する				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

家族論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	有井 晴香	無
科目のねらい				
人間生活の基盤としての家族及び家族関係に関する基本的知識について学ぶ。				
授業の目標				
家族全般について、基礎的知識を学ぶと共に、身近な問題として考える視点・能力を身につける。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	授業ガイダンス：家族とは何か		講義 演習	
2	恋愛と結婚			
3	就業と家族			
4	妊娠・出産／親子関係			
5	家族と福祉			
6	グローバル化と家族			
7	多様化する家族			
8	まとめ [1h]			
評価方法				
レポート課題 (100%)				
教科書				
特に定めない。毎回の講義時に適宜、資料を配布する。				
参考図書・参考文献				
講義内にて適宜、紹介する。				
備考または学生への連絡				

看護のための English skill					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	1 年次前期	アンドレ・パーソンズ	無	
科目のねらい					
国際化に対応できる語学能力を養う。 臨床場面で使用される医学用語について学ぶ。					
授業の内容					
テキストを使って臨床における様々なシチュエーションの対処法を学習し、学習した事柄を練習する。 また、臨床場面で使用される必要な語彙を学習し、授業の初めに小テストを行う。					
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	◎	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力		保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	Orientation		講義 演習		
2	Unit 1 Meeting Patients				
3	Unit 2 Taking a Medical History				
4	Unit 3 Assessing Patients' Symptoms				
5	Unit 4 Taking Vital Signs				
6	Unit 5 Taking a Specimen				
7	Unit 6 Conducting Medical Examinations				
8	中間試験				
9	Unit 7 Assessing Pain				
10	Unit 8 Advising about Medication				
11	Unit 9 Improving Patients' Mobility				
12	Unit 10 Maintaining a Good Diet				
13	Unit 11 Caring for Inpatients				
14	Unit 12 Coping with Emergencies				
15	学期末試験				
評価方法					
中間試験 40% 学期末試験 60%					
教科書					
Caring for People センゲージラーニング 2019					
参考図書・参考文献					
英和・和英辞書					
備考または学生への連絡					
語彙学習のために、ノート、ルーズリーフ、単語カードのいずれかを買っておいてください。					

健康と運動					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	3 年次後期	小林 貴美子	無	
科目のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の保持増進とリラクゼーションを図るとともに協調性を養う。</li> <li>健康生活を維持するための運動の効用について学ぶ。</li> </ul>					
授業の目標					
1) 健康づくりの基礎知識を習得する。 2) 対象者に合わせた運動プログラムを指導できるようになる。					
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	健康づくりのための必要性と目的/身体活動・運動量増加と体力向上		講義 実技		
2	エアロビックダンスの運動強度・運動処方の効果と目的 姿勢チェックとフィットネステスト				
3	姿勢改善に必要な骨格筋名と作用を知る・姿勢改善プログラム① エアロビックダンスエクササイズ①				
4	姿勢改善に必要な骨格筋名と作用を知る・姿勢改善プログラム② エアロビックダンスエクササイズ②				
5	姿勢改善に必要な骨格筋名と作用を知る・姿勢改善プログラム③ エアロビックダンスエクササイズ③				
6	健康づくりのための栄養学① 筋強化（上肢編）とストレッチの効果と目的①				
7	健康づくりのための栄養学② 筋強化（下肢編）とストレッチの効果と目的②				
8	健康づくりのための栄養学③ 機能改善・姿勢改善のためのピラティス①				
9	リラクゼーションのためのヨガ				
10	子どものための運動プログラム ～親子の運動あそび&フィットネスダンス～				
11	高齢者の運動指導の実際/高齢者の運動指導の実際 実践①				
12	高齢者の運動指導の実際 実践②				
13	高齢者の運動指導の実際 運動指導①				
14	高齢者の運動指導の実際 運動指導② / まとめ				
15	筆記/実技試験				
評価方法					
筆記試験 80%      実技（高齢者運動指導）20%					
教科書					
特に定めない。必要時資料配布。					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					
ディスカッションやプレゼンテーションなど必要に応じてアクティブ・ラーニングを行う。					

< 專 門 基 礎 分 野 >

形態機能学総論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次前期	東藤 孝	無
科目のねらい				
人体の形態と生命を保つために必要な機能を理解するための基礎となる知識を学ぶ。				
授業の目標				
人体の構造と機能について、分子・細胞・組織・器官の各レベルで理解し、説明できるようになる。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	序論：人体の構造と機能を学ぶために		パワーポイントにより作成したスライドを用いる。	各自、授業前に教科書を読んで予習する。
2	A. 構造からみた人体			
3	B. 人体の様々な器官 C. 素材からみた人体 C-1. 細胞の構造			
4	C-2. 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 C-3. 細胞膜の構造と機能			
5	C-4. 細胞の増殖と染色体 C-5. 分化した細胞がつくる組織			
6	C-6. 体液とホメオスタシス（酸塩基平衡）			
7	演習（グループワークと発表）			
評価方法				
筆記試験（100%）				
教科書				
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
授業前に、授業で使用するスライドを基に作成した資料を配付する。				

形態機能学各論 I						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	30 時間	1 年次前期	池田 健	有		
科目のねらい						
人体の形態と生命を保つために必要な機能を系統的に学ぶ。						
授業の目標						
人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）とはたらき（機能）について学習し、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。						
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢		
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢		
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	血液（物質を運搬するしくみ）		講義			
2	・血液の組成と機能					
3	呼吸器系（酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ）					
4	・呼吸器系の構造と機能      ・呼吸のプロセス ・呼吸の調整					
5	循環器系（体のすみずみまで血液を送るしくみ）					
6					・心臓      ・血管      ・リンパ系	
7						
8	泌尿器系（尿をつくるしくみ）					
9	・腎臓      ・尿管      ・膀胱      ・尿道      ・尿の貯蔵と排尿 ・体液の調節					
10	自律神経による調節 内分泌系（内部の環境を整えるしくみ）					
11	・内分泌系とホルモン      ・脳にあるホルモン分泌器官 ・甲状腺      ・上皮小体      ・膵臓 ・副腎      ・性腺      ・その他					
12	消化器系（食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ）					
13					・食欲      ・咀嚼      ・嚥下      ・消化      ・吸収      ・排泄	
14						
15	まとめ〔1h〕					
評価方法						
筆記試験（80%）      小テスト（20%）						
教科書						
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院（電子教科書）						
参考図書・参考文献						
備考または学生への連絡						

形態機能学各論Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	佐々木 秀直 他	有
科目のねらい				
人体の形態と生命を保つために必要な機能を系統的に学ぶ。				
授業の目標				
人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）とはたらき（機能）について学習し、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	脳・神経系		講義	
2	(情報を収集して判断し、伝達するしくみ)			
3	・神経系の構造と機能	・脊椎と脳		
4	・脊髄神経と脳神経	・脳の統合機能		
5	・運動機能と下行伝導路	・内臓感覚 ・痛み		
6	筋・骨格系		講義	
7	骨格系 (体を支えるしくみ)			
8	・骨と骨格	・骨の連結		
9	筋系 (体を動かすしくみ)			
10	・骨格筋	・体幹の骨格と筋		
	・上司の骨格と筋	・下肢の骨格と筋		
	・頭頸部の骨格と筋	・筋の収縮		
11	生殖器系 (子孫を残すしくみ)		講義	
	・男性生殖器	・女性生殖器		
	・受精と胎児の発生			
12	免疫系 (異物を認識、記憶して排除するしくみ)		講義	
	・非特異的生体防御機構：自然免疫機構			
	・特異的生体防御機構：獲得性免疫機構			
13	感覚器系 (外部から情報を取り入れるしくみ)		講義	
	・感覚の特徴	・視覚		
14	・聴覚と平衡覚	・嗅覚と味覚		
	・体性感覚			
15	試験 (1h × 2 回)			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

形態機能学各論Ⅲ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
生活を営むための健康な身体の仕組みと働きを理解し、適切な援助と看護過程に活かす為の基礎を学ぶ。				
授業の目標				
これまで習得した人体の構造と機能の知識を健康な人間にあてはめ、日常生活においてどのような機能と役割が正常に発揮されているのかを学ぶ。また、調べ学習から全体で知識を共有する。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	講義全体の概要説明 人体の構造と機能の知識を基に日常生活に照らし合わせ、8つのテーマに沿って正常な行動は何かを考える。 ①血液を循環させる②息を吸う・吐く③運動する④食べる・排便 ⑤排尿⑥話す・聞く⑦清潔にする⑧眠る・休む		講義 グループワーク	グループ毎に発表資料作成 PP、模造紙、モデル模型、など
2	グループワーク		グループワーク	
3	グループワーク			
4	グループワーク			
5	グループワーク			
6	グループ発表		発表・グループワーク	発表後レポート提出
7				
評価方法				
レポート評価(40%)、筆記試験(60%)				
教科書				
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
図書室文献 IoT の活用				
備考または学生への連絡				
対象の日常生活行動を援助する看護技術の土台となります。自己の身体に興味を持ち、これまでの知識を活用し正常な身体の動きと役割を学びます。講義時間以外にもグループ学習時間を共有し正確な学習資料を仕上げてください。				

栄 養 学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次前期	外部講師	有
科目のねらい				
人間にとっての栄養の意義を認識し、健康な生活を営むための適切な栄養の摂り方について学ぶ。				
授業の目標				
栄養学を通して、健康増進及び疾病予防のための食事療法を理解する。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	臨床栄養学の基礎知識		講義形式	教科書に準ずる
2	食品成分と食事摂取基準			
3	日常生活と栄養			
4	療養生活と栄養			
5	疾患別の食事療法①			
6	疾患別の食事療法②			
7	栄養食事指導の実際			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 栄養学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

生 化 学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	外部講師	無
科目のねらい				
人間の生命現象を科学的に判断する能力を養うために、人体を構成する化学物質の性状と一連の代謝、すなわち糖質・脂質・たんぱく質などの生体高分子が酵素反応により異化および同化される仕組みと、これらに共役したエネルギー生成機構について学ぶ。また遺伝子の働き、体液の酸塩基平衡についても学ぶ。				
授業の目標				
1. 糖質・脂質・たんぱく質代謝の概要を説明できる。 2. ATP エネルギー生成機構の概要を説明できる。 3. 各物質代謝系の相互関係やエネルギー生成機構との関係を説明できる。 4. 遺伝子の働きを列挙できる。 5. 体液の酸塩基平衡失調の原因を列挙できる。				
DP との対応	◎	看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	授業内容と方法の説明 レディネスの確認(pH、浸透圧、酸塩基平衡等) 細胞の構造と機能(1章D)、代謝の基礎と酵素・補酵素(2章) ～細胞内小器官、酵素と酵素反応の特性、生体内での役割		教科書をもとに、口述と板書で説明する。	毎回、授業の前に教科書の該当ページを一読しておく。  授業中に適宜、質問するので真摯に答える。
2	糖質の構造と機能(3章)、糖質代謝1(4章A, B) ～糖質の構造と機能、血糖値調節、解糖系			
3	糖質代謝2(4章B, C, D, E) ～クエン酸回路、電子伝達系、ATP生産、グリコーゲン代謝、糖新生			
4	脂質の構造と機能(5章)、脂質代謝(6章A, B) ～脂質の構造と機能、脂質の消化・吸収、脂肪酸の分解			
5	たんぱく質の構造と機能(7章)、たんぱく質代謝(8章) ～たんぱく質の構造と機能、脱アミノ反応、尿素回路			
6	遺伝子と核酸(10章)、遺伝子の複製、転写、翻訳(11, 12, 13章) ～核酸の構造と機能、遺伝子複製、たんぱく質合成(転写・翻訳)		教科書に加えDVD教材で理解を深める。	
7	体液の酸塩基平衡(配布プリント) ～体液のpH調節、酸塩基平衡失調の原因と症状		主にプリント教材を用いて口述と板書で説明する。	
評価方法				
筆記試験(100%)				
教科書				
系統看護学講座 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院(電子教科書)				
参考図書・参考文献				
1. 生化学—からだの不思議を解き明かす じほう 2013 2. 亀田講義ナマ中継 生化学 講談社 2012				
備考または学生への連絡				
この講義の目標達成のために教科書を基に、口述、板書での説明をノートに整理して自分の「講義ノート」を作成し、さらに配布プリントで理解を深めてください。				

疾病と治療 I (病理・歯科口腔・内分泌・代謝系)				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	池田 健 他	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序を学ぶ基礎として、病院論・奇形および生態の反応についての基礎知識を学ぶ。 疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
病気の原因や成り立ちについて、看護に必要な病理学を学ぶ。 形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	病 理 学	病理学で学ぶこと ・看護と病理学・病気の原因・病気の分類と病理学の学び方	講義	
2		細胞・組織の損傷と修復、炎症 ・細胞・組織の損傷と適応・炎症とは 炎症の各型 免疫、移植 ・免疫と免疫不全・アレルギーと自己免疫疾患		
3		腫瘍 ・腫瘍の定義と分類 悪性腫瘍の広がりや影響 ・腫瘍の発生病理 腫瘍の診断と治療		
4		老化と死 ・個体の老化と老年症候群・加齢に伴う諸臓器の変化 先天異常と遺伝子異常 ・遺伝の生物学 先天異常 遺伝子異常と疾患		
5	歯 科 口 腔	症状と病態生理：口腔症状、顎口腔機能障害	講義	
6		疾患の理解：齲歯と歯周疾患の治療		
7		口唇裂・口蓋裂の手術、歯性上顎洞炎の治療		
8		口腔粘膜の疾患（アフタ、潰瘍性疾患、感染症）〔1 h〕		
9	内 分 泌 ・ 代 謝 系	<症状と病態生理・検査・治療> ・視床下部-下垂体前葉系疾患 (巨人症、クッシング病、下垂体機能低下症) ・視床下部-下垂体後葉系疾患(尿崩症)	講義	
10		・甲状腺疾患 (慢性甲状腺炎、バセドウ病、甲状腺機能低下症、甲状腺腫瘍)		
11		・副腎疾患 (原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫)		
12		・糖尿病(疾患の概要、分類、診断、治療)	講義	
13		・糖尿病の合併症(慢性および急性合併症と治療)		
14		・脂質異常症の病態、診断、治療 ・肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常(痛風)		
評価方法				
筆記試験(100%) 3 回				
教科書				
系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 医学書院(電子教科書) 系統看護学講座 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院(電子教科書) 系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院(電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

疾病と治療Ⅱ（脳神経・血液造血器・運動器）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	佐々木 秀直 他	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	脳神経	疾患の理解(症状、病態生理、検査、診断、治療、処置) 脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脳脊髄液の異常	講義	
2		疾患の理解(症状、病態生理、検査、診断、治療、処置) 脊髄血管障害、脊髄炎、頸椎症、腰椎症、脊髄腫瘍、脊髄空洞症		
3		末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患の理解 各ニューロパシー、ギランバレー症候群、神経痛、顔面神経、 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症		
4		脱髄・変性疾患の理解 多発性硬化症、パーキンソン病および症候群、脊髄小脳変性症、 筋萎縮性側索硬化症		
5		脳神経系の感染症 脳炎、髄膜炎、脳膿瘍、その他の神経感染症		
6	血液造血器	[血液の成分と機能、造血のしくみ] ・病歴聴取と身体所見（貧血、発熱、リンパ節腫脹、出血傾向） ・検査（骨髄穿刺・骨髄生検、リンパ節生検）	講義	
7		・症候と病態生理 （貧血、白血球増多、減少症、脾腫、リンパ節腫脹、出血性素因）		
8		[疾患と治療の理解] ・赤血球系の異常（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血） ・白血球系の異常（無顆粒球症、顆粒球機能異常症、伝染性単核球症） ・造血器腫瘍の特徴、分類、治療計画と治療方法		
9		・急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫		
10		・血友病、播種性血管内凝固症候群（DIC）〔1h〕		
11	運動器	症状と病態生理：形態の異常、関節運動の異常、神経の障害、異常歩行 診断・検査と治療・処置：画像検査、保存療法、手術療法 疾患の理解：神経の損傷、腱の損傷	講義	
12		代表的な外傷と治療：骨折・脱臼		
13		<症状と病態生理・検査・治療> ・関節リウマチ、変形性関節症		
14		・脊椎の疾患（変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊椎の姿勢異常）		
評価方法				
筆記試験（100％）3回				
教科書				
系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院（電子教科書）				
系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院（電子教科書）				
系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

疾病と治療Ⅲ（呼吸器・消化器・膠原病）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次後期	矢和田 敦 他	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	消化器	症状と病態生理	講義	
2		検査と治療 食道の疾患（食道癌、胃食道逆流症） 胃・十二指腸疾患（急性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）		
3		腸の疾患（感染性腸炎、潰瘍性腸炎、クローン病、腹膜炎、虫垂炎、腸閉塞、大腸癌）		
4		腹水、黄疸、意識障害（肝性脳症）、肝機能検査、 肝血管造影検査、ERCP、肝生検 疾患の理解：肝炎ウイルスと感染予防対策、肝臓・胆嚢の疾患、 急性肝炎		
5		慢性肝炎、肝硬変症、門脈圧亢進症、肝不全、肝臓癌		
6		胆石症、急性胆嚢炎および胆管炎、胆管癌、胆嚢癌 膵臓の疾患 … ・膵(臓)炎、膵(臓)癌		
7	呼吸器	呼吸器の構造と機能 呼吸機能検査と動脈血ガス 症状と病態生理（喀痰、咳嗽、胸痛、呼吸困難）	講義	
8		検査と治療・処置 画像診断 内視鏡検査 生検 呼吸機能検査 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 気道確保		
9		感染症：インフルエンザ 肺炎 結核		
10		間質性肺疾患（原因不明の間質性肺炎、サルコイドーシス）		
11		気道疾患：気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患（COPD）		
12		肺血栓塞栓症 呼吸不全 肺腫瘍		
13	膠原病	膠原病の概念（特徴、診断と治療等） シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス	講義	
14		関節リウマチとその治療		
評価方法				
筆記試験（100％）2回				
教科書				
系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院（電子教科書） 系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院（電子教科書） 系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

疾病と治療IV (循環器)				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	廣瀬 尚徳 他	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	循環器の構造と機能 ＜検査と治療＞ 心電図 胸部 X 線検査 心エコー法 脈波検査 心臓カテーテル法 血行動態モニタリング 心臓核医学検査 コンピュータ断層撮影 (CT)		講義	
2	＜疾患の理解・症状と病態生理＞ 虚血性心疾患 (労作性狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞)			
3	心不全 (病態とその分類、診断、治療)			
4	＜症状と病態生理・検査・治療＞ 血圧異常 (本態性高血圧、二次性高血圧、本態性低血圧)			
5	＜症状と病態生理・検査・治療＞ 不整脈 (徐脈性不整脈、頻脈性不整脈)			
6	＜症状と病態生理・検査・治療＞ 弁膜症 (僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症)			
7	＜症状と病態生理・検査・治療＞ 心膜炎 心筋疾患 (心筋症、心筋炎) 先天性心疾患 (動脈開存症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、 ファロー四徴症)			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

疾病と治療V (泌尿器・腎系)				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	外部講師	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	泌尿器	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓の構造と機能 ・ 男性生殖器の構造と機能</li> <li>尿の異常、排尿に関連した症状</li> </ul>	講義	
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>腫瘍 (腎実質腫瘍、前立腺がん、膀胱がん)</li> </ul>		
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>尿路・性器の感染症 (腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎)</li> <li>尿路の通過障害と機能障害 (水腎症、VUR、神経因性膀胱、前立腺肥大症)</li> </ul>		
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>尿路損傷および異物、尿路結石症、男性不妊症 [1 h]</li> </ul>		
5	腎系	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;症状と病態生理・検査・治療&gt;</li> <li>腎不全と慢性腎臓病</li> <li>腎機能検査、腎生検、透析療法</li> </ul>	講義	
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;症状と病態生理・検査・治療&gt;</li> <li>ネフローゼ症候群 ・糸球体腎炎 (I g A腎症、微小変化群)</li> </ul>		
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;症状と病態生理・検査・治療&gt;</li> <li>糖尿病性腎症 ・腎血管性病変 (腎硬化症、腎血管性高血圧)</li> </ul>		
評価方法				
筆記試験 (100%) 2 回				
教科書				
系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

疾病と治療VI (女性生殖器・感覚器)				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次前期	川岸 涼子 他	有
科目のねらい				
疾病の原因や発生機序および診断・治療について学ぶ。				
授業の目標				
形態機能学の既習知識をもとに主な疾病の病態・治療について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	女性生殖器	女性生殖器の機能と構造、月経周期、月経異常、更年期障害	講義 教科書①	
2		診察・検査と治療・処置 ・病理検査、画像検査、内視鏡検査 ・手術（腹腔へのアプローチ、経腔手術アプローチ）		
3		主な疾患の病態と治療（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮頸癌、卵巣癌、感染症、骨盤臓器脱、不妊症と不育症、異所性妊娠、卵巣出血、茎捻転等）		
4		乳房の疾患（解剖と疾患の特徴と治療）		
5	眼科	眼の構造と機能、眼疾患の症状、眼科の検査	講義 教科書②	
6		眼疾患の主な治療法 主な眼疾患の病態と治療（屈折および調節の異常）		
7		主な眼疾患の病態と治療 （結膜の疾患、角膜の疾患、網膜の疾患、白内障、緑内障等）		
8	耳鼻科	耳の構造と機能、耳の診察と検査 主な疾患の病態と治療（中耳炎、突発性難聴、メニエール病等）	講義 教科書③	
9		鼻の構造と機能、鼻の診察と検査 主な疾患の病態と治療 （鼻中隔彎曲症、鼻出血、鼻炎、副鼻腔炎、上顎癌等）		
10		口腔と唾液腺、口腔・咽頭の生理 口腔・咽喉頭疾患（舌癌、咽頭炎、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、扁桃肥大、咽頭がん、喉頭がん等）		
11	皮膚科	症状と病態生理（発疹、続発疹、特定の皮膚病変、掻痒） 皮膚科的検査法、主な治療法（全身療法、外用療法）	講義 教科書④	
12		主な疾患（湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、紅斑症、薬疹、膿症、角化症、汗疹、脱毛症、光線過敏症、凍傷、凍瘡等）		
13	形成	腫瘍および色素異常症（上皮系腫瘍、色素異常症、母斑症等）[1h]		
14		熱傷（重症度の判定法、熱傷深度と予後、治療等）、褥瘡		
評価方法				
筆記試験（100%）3回				
教科書				
① 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院（電子教科書）				
② 系統看護学講座 成人看護学[13] 眼 医学書院（電子教科書）				
③ 系統看護学講座 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院（電子教科書）				
④ 系統看護学講座 成人看護学[12] 皮膚 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

病態生理学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
「形態機能学」、「疾病と治療」の知識をもとに病理学的変化(病変)によりもたらされる症候について理解を深め、看護実践のエビデンスに活用する基礎的能力を培う。				
授業の目標				
主要な症状と兆候について原因・メカニズム・種類および観察のポイントを理解し、臨床での根拠を伴う観察力、判断力の基礎を養う。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	体液、電解質の調節とその異常 塩基平衡のしくみとその異常		講義	ワークシート
2	浮腫 毛細血管圧と膠質浸透圧 浮腫の原因 浸出液と濾出液			
3	症状とその病態生理 吐気、嘔吐			
4	症状とその病態生理 便秘・下痢			
5	症状とその病態生理 吐血・喀血・下血			
6	事例をもとに病態関連図を作成する①			事前学習を基に病態関連図課題
7	事例をもとに病態関連図を作成する②			病態関連図課題提出
評価方法				
筆記試験 (40 点)      ワークシート 2 点×5 回 (10 点) 事前学習課題 (20 点)      病態関連図課題 (30 点)				
教科書				
①系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院 (電子教科書)				
②系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 (電子教科書)				
③系統看護学講座 専門基礎 消化器 医学書院 (電子教科書)				
④系統看護学講座 専門基礎 呼吸器 医学書院 (電子教科書)				
⑤看護過程に沿った対症看護 学研				
⑥疾患別看護過程の展開 学研				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
ワークシートは講義内にポイントを説明しながら行い講義終了後に集めます。 病態関連図について、実習で各自が整理できるように事前学習を活かしながら作成します。				

治療論 I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次前期	駒野 圭史 他	有
科目のねらい				
疾病の診断および疾病・障害の回復を促進させる方法について学ぶ。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの歴史の変遷、考え方、対象となる人の身体的・心理的・社会的特徴について学ぶ。</li> <li>・画像診断、放射線治療、放射線防護について学ぶ。</li> <li>・臨床検査の意義や目的を理解し検査データを解釈することができる。</li> </ul>				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	リハビリテーション	リハビリテーション総論 ・リハビリテーションの歴史と理念、看護の実際 ・障害者の定義と動向	講義 教科書①  演習	
2		・リハビリテーションにおける評価 ・障害者の定義と動向		
3		・経過別リハビリテーション（急性期・回復期） ・身体機能・回復促す看護援助		
4		・機能障害別リハビリテーション看護 ・身体機能維持、回復を促す看護援助		
5	放射線医学の基礎	・放射線医学の成り立ちと意義 放射線医学の役割	講義 教科書②	
6		・X線診断、CT、MRI 核医学検査、IVR・血管造影について		
7		・放射線治療総論 放射線治療の特徴と目的		
8		・放射線治療と看護 ・放射線障害について		
9		・放射線治療各論 (脳腫瘍、肺がん、食道がん、直腸がん、骨転移等) 試験 (1h)		
10	臨床検査の基礎	・臨床検査とその役割 看護師の役割	講義 教科書③	
11		・一般検査、血液学的検査、		
12		・生化学検査、糖代謝検査、脂質代謝検査、水・電解質の検査		
13		・炎症マーカーの検査、液性免疫の検査、腫瘍マーカー、輸血に関する検査		
14		・微生物学的検査、病理検査、生理機能検査		
評価方法				
筆記試験 (100%) 3 回				
教科書				
① 系統看護学講座、別巻 リハビリテーション看護 医学書院 (電子教科書)				
② 系統看護学講座、別巻 臨床放射線医学 医学書院 (電子教科書)				
③ 系統看護学講座、別巻 臨床検査 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

治療論Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	雲母 公貴 他	有
科目のねらい				
疾病・障害の回復を促進させる方法について学ぶ。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻酔の基礎、呼吸管理、救急処置について学ぶ。</li> <li>・ME 機器の安全管理など、基本的知識について学ぶ。</li> </ul>				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	麻酔の基礎	・麻酔の種類と合併症	講義 教科書①	
2		・全身麻酔と呼吸管理について		
3	救急処置法	・救急処置 一次救命処置、二次救命処置とは	講義 演習 教科書①②③	
4		気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫		
5	ME 機器の基礎	・ME 機器とは ・臨床工学の業務 医療ガスの種類と用途	講義 教科書①②④	
6		・ME 機器使用上の安全管理 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い方法		
7		・人工呼吸器、心電図、除細動器、心臓ペースメーカー IABP パルスオキシメーター	講義・演習 教科書①②④	
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
① 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 (電子教科書)				
② 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 (電子教科書)				
③ 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 (電子教科書)				
④ 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 (電子教科書)				
看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 2018				
備考または学生への連絡				

薬理学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	外部講師	有
科目のねらい				
薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について学ぶ。				
授業の目標				
総論で薬理学に関する基本知識を習得し、その後各論にて各種疾患に用いる治療薬の詳細を学ぶ。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	総論	薬物療法の目指すもの 薬はどのように作用するのか	講義	
2		薬はどのように体内をめぐっていくのか 薬効に影響する因子		
3		薬物の有害作用 薬の管理と新薬の誕生		
4	各論	抗感染症薬		
5		がん治療に関する基礎事項		
6		抗がん剤 免疫治療薬		
7		炎症の種類と治療薬 抗アレルギー・抗炎症薬		
8		抗リウマチ薬 分子標的薬 痛風 高尿酸血症治療薬 補充療法薬		
9		末梢での神経活動に作用する薬物 自律神経系作用薬 交感神経作用薬 副交感神経作用薬		
10	各論	中枢神経系に作用する薬物		
11		抗精神病薬 抗不安薬 抗パーキンソン薬 抗てんかん薬		
12		麻薬性鎮痛薬		
13	各論	循環器系に作用する薬物 血液凝固系、線溶系に作用する薬物		
14		呼吸器・消化器系・生殖器系に作用する薬物		
15		物質代謝に作用する薬物 漢方薬 輸液製剤・輸血剤		
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

微生物学				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	小熊 恵二	有
科目のねらい				
微生物の人体におよぼす影響、および、病原微生物の感染対策について学ぶ。				
授業の目標				
1. ヒトに感染する微生物の種類、その感染様式と特徴的な症状などを述べる事が出来る。 2. 感染症に対する一般的な予防・診断と治療・看護の方法を述べる事が出来る。 3. 上記1, 2をふまえ、重要な微生物による個々の感染に対し、その対策や問題点を述べる事が出来る。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	微生物(学) の歴史と特徴 (真核生物と原核生物の違い)、細菌の形態・分類	講義 グループワーク  講義は教科書とスライドを用いて行う。  教科書に無いスライドは印刷して配布するので、これらを利用して予習・復習すること。	左記 各論においては、各微生物の病原性発揮の仕組みとその対策等を理解する。	
2	細菌の増殖、変異と遺伝、遺伝形質の伝達			
3	感染と発症 (細菌の病原因子と宿主側防御因子、感染症の種類、診断、治療)			
4	ウイルス学総論 (形態と分類、感染様式、培養、変異、診断、治療など)			
5	真菌学総論・各論 (真菌の特徴や主な感染症について)			
6	寄生虫学総論・各論 (寄生虫の特徴や主な感染症について)			
7	感染と免疫 (自然免疫と獲得免疫の確立とその作用・効果について)			
8	感染と免疫 (アレルギー、免疫不全症、ワクチンなど)			
9	滅菌・消毒と標準予防策など			
10	各論；消化器感染症			
11	各論；呼吸器感染症			
12	各論；神経系感染症			
13	各論；皮膚・粘膜感染症			
14	各論；泌尿生殖器・先天性感染症			
15	感染症の問題点と感染症法			
評価方法				
授業終了後の筆記試験にて評価 (100%)				
教科書				
わかりやすく学ぶ病原微生物の世界 あつぷる出版社 2022				
参考図書・参考文献				
コンパクト微生物学 南江堂 2021 シンプル微生物学 南江堂 2018				
備考または学生への連絡				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドで、微生物の形態や典型的な症状、最近の問題点などを示す。</li> <li>・15回の講義内容は進捗状況に応じて調整することがある。</li> </ul>				

保健医療論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次後期	学校長	有
科目のねらい				
現代社会における保健・医療・福祉の動向と課題を学び、看護職としての考え方や態度を身につける。				
授業の目標				
現代医療の状況と課題について学ぶ 医療倫理、生命倫理、臨床倫理について学ぶ				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	◎ 倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	○ 保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	医療の歩みと医療観の変遷		講義	
2	医療倫理 ヒポクラテスの誓い			
3	生命倫理 ニュルンベルク裁判 患者の権利、インフォームドコンセント 生殖医療、死の受容、先端医療			
4	臨床倫理 共同意思決定 多職種連携			
5	チーム医療 在宅医療			
6	医療経済学①			
7	医療経済学② まとめ			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[1] 医療概論 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
系統看護学講座 総合医療論 医学書院 (電子教科書)				
備考または学生への連絡				

多職種連携活動論					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	専任教員・外部講師	有	
科目のねらい					
対象の QOL を向上するために多職種の連携・協働を図る必要性を理解し、専門職として必要な知識と技術を学ぶ。					
授業の目標					
保健・医療・福祉における専門職の役割と機能について理解することができる。 保健・医療・福祉における多職種連携のあり方を学び実践につなげる枠組み、モデルがイメージできる。					
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力		より良い人間関係を築く力	
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎	保健医療福祉チームにおける連携力	
				倫理的姿勢	
				主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	多職種連携の概念・基本理念			講義 演習	
2	介護保険制度と多職種連携 地域包括ケアでの多職種連携（地域包括支援センター）				
3	医療機関で行われている多職種連携①（薬剤師）				
4	医療機関で行われている多職種連携②（管理栄養士、理学療法士）				
5	地域連携における各職種の役割、専門性、活動の特性、連携の実際 ・退院調整 ・退院支援と地域連携				
6	地域連携における各職種の役割、専門性、活動の特性、連携の実際 ・介護支援専門員（地域包括支援センター）				
7	地域連携における連携の実際 まとめ				
評価方法					
筆記試験（100%）					
教科書					
特に定めない					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					

公衆衛生学					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年次前期	齊藤 恭平	無	
科目のねらい					
健康増進、疾病予防及び疾病構造の変化や在宅療養者の問題などに対する組織的な保健活動について学ぶ。					
授業の目標					
公衆衛生的な考え方を身に付け、集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を考えることができる。					
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	公衆衛生学の概念		講義 グループワーク		
2	健康の概念				
3	公衆衛生と人口問題				
4	人口動態統計と保健統計				
5	感染症について①				
6	感染症について②				
7	母子保健				
8	学校保健 児童生徒の健康				
9	成人や老年の健康①				
10	成人や老年の健康②				
11	成人や老年の健康③				
12	成人や老年の健康④				
13	健康づくりとヘルスプロモーション①				
14	健康づくりとヘルスプロモーション②				
15	試験 解説				
評価方法					
筆記試験 (100%)					
教科書					
わかりやすい公衆衛生学 ノーヴェルヒロカワ 2019 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					

社会福祉				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次後期	中村 直樹	無
科目のねらい				
社会福祉と医療、社会保障の関連について理解し、対象のニーズに応えるための方法や制度、サービスの活用について学ぶ。				
授業の目標				
社会保障、社会福祉の概要を理解し、具体的にどのような保障内容があるのかを学ぶ。さらに、社会福祉の制度や支援を理解するとともに、社会福祉を実際に担う組織や従事者について理解する。以上の理解を通して看護師に求められる社会保障、社会福祉に関する理解を深める。				
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎ 保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	社会保障・社会福祉（ガイダンス）	授業の中ではパワーポイント・視覚資料等を用い、必要に応じて事例を活用し、看護師に求められる社会保障、社会福祉に関する理解を深めることに貢献できる授業を行う。	事前学習：教科書の該当部分（前回講義で指示する）を読むこと  事後学習：毎回の授業内容を復習しておくこと	
2	社会保障制度と社会福祉（第1章）			
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向①（第2章）			
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向②（第2章）			
5	医療保障①（第3章）			
6	医療保障②（第3章）			
7	介護保障（第4章）			
8	所得保障（第5章）			
9	公的扶助（第6章）			
10	社会福祉の分野とサービス①高齢者福祉（第7章）			
11	社会福祉の分野とサービス②障害者福祉（第7章）			
12	社会福祉の分野とサービス③児童家庭福祉（第7章）			
13	社会福祉実践と医療・看護①（第8章）			
14	社会福祉実践と医療・看護②（第8章）			
15	社会福祉の歴史（第9章） 試験〔1h〕			
評価方法				
筆記試験（100%）				
教科書				
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
授業時に適宜紹介する				
備考または学生への連絡				

看護と法律					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	吉川 真由美	有	
科目のねらい					
看護活動の根拠となる保健師助産師看護師法等について学ぶとともに、看護師の責任と義務について学ぶ。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法について学び、看護職が免許を有することで担わなければならない義務と責任について理解する。</li> <li>・看護師等の人材確保に関する法律の目的、人材確保のための取り組みについて学ぶ。</li> </ul>					
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力		より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生法の沿革……新しい職種の制定</li> <li>・保健師助産師看護師法の沿革</li> </ul>		講義 教科書①②		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師法の構造と附属法令</li> <li>【保健師助産師看護師法】</li> <li>第1章 [総則] (法の目的、定義)</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章 [免許] (免許、欠格事由、籍、免許の付与・交付、免許の取消しなど)</li> <li>第3章 [試験] (試験の内容、受験資格、研修の努力義務)</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4章 [業務] (業務の制限、届出義務、禁止行為、保健師に対する指示、特定行為の研修、応招義務、守秘義務、名称独占)</li> </ul>				
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療過誤 (民事上、刑事上、行政上の責任)</li> <li>第5章 [罰則]</li> <li>※【個人情報の保護に関する法律】</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>[研修等]</li> <li>・新人看護師研修制度 ・特定行為研修</li> <li>[看護職者のキャリア開発]</li> <li>・専門看護師、認定看護師など</li> </ul>				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>【看護師等の人材確保の促進に関する法律】</li> <li>第1章 [総則] 第2章 [看護師等の人材確保の促進]</li> <li>第3章 [ナースセンター]</li> </ul>				
評価方法					
筆記試験 (100%)					
教科書					
① 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院 (電子教科書)					
② 新版看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 2024					
参考図書・参考文献					
看護六法 新日本法規 2024					
備考または学生への連絡					

関係法規					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	3 年次後期	佐々木 慎司 他	有	
科目のねらい					
看護活動および保健医療行政の根拠となる法規について学ぶ。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬事一般の知識を法的規定から理解する。また、麻薬・毒物の取扱い上の規制について理解する。</li> <li>・医療法の概要について理解する。</li> <li>・労働条件や職場の安全衛生について、その法的な基礎知識を理解する。</li> <li>・地域保健法および健康増進法の概要について理解する。</li> <li>・感染症対策の根拠となる法律について理解する。</li> </ul>					
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="checkbox"/>	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師法 〔薬事一般に関する法律〕</li> <li>・医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (略称：医薬品医療機器等法)</li> </ul>			講義 教科書①③	
2	〔麻薬・毒物など〕 ① 麻薬及び向精神薬取締法 ② 大麻取締法 ③ あへん法 ④ 覚せい剤取締法 ⑤ 毒物及び劇物取締法				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法</li> </ul>			講義 教科書①③	
4	〔労働法〕 ① 労働基準法 ② 労働安全衛生法 ③ 労働者災害補償保険法 ④ 雇用保険法 ⑤ 育児休業、介護休暇等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 ⑥ 適正な労働の確保に関する法				
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健法</li> <li>・健康増進法</li> </ul>			講義 教科書①②③	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症法の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (略称：感染症法)</li> <li>・予防接種法</li> </ul>				
7	試験				
評価方法					
筆記試験 (100%) 3 回					
教科書					
① 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院 (電子教科書) ② 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 ③ 公衆衛生が見える メディックメディア					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					

< 專 門 分 野 >

基礎看護学概論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
看護の概念について理解し、看護の本質と役割機能について理解する。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の変遷を捉え、看護の現在の位置づけについて理解する。</li> <li>・人間科学としての看護について理解する。</li> <li>・看護実践における重要な概念（人間・環境・健康）について理解する。</li> <li>・看護の機能と役割について理解する。</li> <li>・看護理論の基礎的知識について学ぶ。</li> </ul>				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	看護の変遷（世界の看護）		講義 内容に合わせてグループワークを取り入れる	学習課題① ヴァージニア・ヘンダーソン： 「看護の基本となるもの」について 個人ワーク  学習課題② 「看護」とは何か リーフレットの作成
2	看護の歴史（日本の看護・医療）			
3	看護の歴史（職業としての看護）、看護の定義			
4	看護とは：ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護理論他			
5	ヘンダーソンの看護理論：グループワーク			
6	ヘンダーソンの看護理論：グループワーク・発表			
7	看護の役割と機能、看護の継続性と連携、			
8	看護の対象の理解			
9	国民の健康状態と生活			
10	国民のライフサイクル			
11	「看護とは」：グループワーク			
12	「看護とは」：グループワーク・発表			
13	看護職の資格・養成制度・就業状況 看護職の継続教育とキャリア開発			
14	看護サービス提供の場、看護をめぐる制度と政策			
15	まとめ（1h）			
評価方法				
学習課題 40%（学習課題① 20%、学習課題② 10%、グループ発表 5%、その他感想等の提出物 5%） 筆記試験 60%				
教科書				
①系統看護学講座 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院（電子教科書） ②看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2021				
参考図書・参考文献				
随時、講義内で紹介します。				
備考または学生への連絡				
これから看護学を学ぶにあたって基本となる講義になります。毎回の資料はきちんと整理し、持参するようにして下さい。				

看護倫理					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	専任教員	有	
科目のねらい					
看護倫理の基礎知識について理解し、倫理的行動について学ぶ。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践と看護倫理の関係性を理解する。</li> <li>・看護倫理のアプローチについて必要な倫理について理解する。</li> <li>・倫理に関する重要な言葉の意味を理解する。</li> <li>・倫理綱領の意義と活用について理解する。</li> <li>・専門職としての看護師の行動を考える。</li> </ul>					
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input checked="" type="radio"/> 倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="checkbox"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	生命倫理① (倫理学の基本的な考え方)		講義 ※適宜小演習を取り入れる	学習課題	
2	生命倫理② (特徴、歴史、理論、看護職の責務)				
3	看護倫理① (学ぶ意義、歴史、倫理原則)				
4	看護倫理② (実践上の倫理的概念)				
5	専門職の倫理 (ICN の倫理綱領、看護職の倫理綱領：日本看護協会)				
6	倫理問題へのアプローチ①				
7	倫理問題へのアプローチ②				
評価方法					
学習課題 20% 筆記試験 80%					
教科書					
① 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 (電子教科書)					
② 看護職の基本的責務 2025 年版 日本看護協会出版会 2025					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					

看護援助に共通する技術（コミュニケーション・環境・感染予防）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
2単位	45時間	1年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
援助の人間関係を形成するためのコミュニケーションを展開できる 入院生活環境を整えるための共通する看護技術を学ぶ				
授業の目標				
1 医療・看護におけるコミュニケーションの重要性とその意義・方法を理解する 2 コミュニケーションの構成要素、人間関係成立のためのコミュニケーション技術について理解する 3 観察や援助を通し対象との人間関係の形成について理解する 4 看護における報告の重要性について理解し、場面に応じたコミュニケーション技術を習得できる 5 入院生活を整えるための必要な知識を理解し、援助技術を習得できる 6 感染成立の条件及び感染予防に必要な知識を理解し、感染予防のための技術を習得できる 7 看護場面を通じて看護援助に共通する技術を習得できる				
DPとの対応		看護の対象を統合的に捉える力	◎ より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	看護技術の導入		講義	
2	援助の基礎知識 ・療養生活の環境 ・病室の環境のアセスメントと調整		講義	
3	援助の実際 ・ベッド周囲の環境整備 ・病床を整える		講義	
4	ベッド周囲の環境整備：実技		講義・実技	
5	ベッドメイキング 演習講義・デモンストレーション		講義・実技	実技後レポート
6	ベッドメイキング：演習		演習	演習後レポート
7	感染予防の基礎知識と標準予防策について		講義	
8	手指衛生の種類、方法、手洗い演習		実技	
9	個人防護具について、感染経路別予防策		講義	
10	コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションとは ・医療におけるコミュニケーション		講義	
11	コミュニケーションの構成要素と成立過程		講義	
12	関係構築のためのコミュニケーションの基本		講義	
13	演習：デモンストレーション（1h）		講義	
14	コミュニケーション+手洗い+防護用具+環境整備：演習		演習	演習後レポート
15	リフレクション（1h）		講義	
16	洗浄、消毒、滅菌の基礎知識、感染性廃棄物の取り扱い		講義	
17	無菌操作の基礎知識、滅菌物の取り扱い		講義	
18	無菌操作演習		実技	実技後レポート
19	感染防止における看護師の責務と役割、針刺し防止策		講義	
20	効果的なコミュニケーションの実際		講義	
21	看護における報告		講義	
22	コミュニケーション障害への対応		講義	
評価方法				
〔コミュニケーション：演習（20%）、筆記試験（80%）〕〔生活環境：演習（20%）、筆記試験（80%）〕〔感染予防：筆記試験（100%）〕				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院（電子教科書） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア				
参考図書・参考文献				
病原微生物の世界（あっぷる出版社）				
備考または学生への連絡				

日常生活を整える技術：基礎看護学方法論Ⅰ（活動・休息）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
対象の日常生活を整えるための活動・休息の援助技術を学ぶ。				
授業の目標				
1. 日常生活における活動・移動の意義や援助に必要な知識を理解する。 2. 日常生活における睡眠と休息の意義や援助に必要な知識を理解する。 3. 活動・休息の援助技術を習得できる。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	基礎本的活動の基礎知識（活動・運動の意義、運動が人間に与える影響、活動・運動のアセスメント）		講義	
2	ボディメカニクスの基本的知識、活用方法・体位変換による患者の身体の変化（基本体位、特殊体位、体位変換を行う目的）		講義	
3	体位変換演習		実技	実技後レポート
4	体位変換を活用した臥床患者のシーツ交換方法（ボックスシーツとフラットシーツの違い）・移乗・移送の基礎知識（車いすの種類と各部名称、基本操作方法、留意点、観察点）		講義	
5	体位変換を活用した臥床患者のボックスシーツ交換演習		実技	実技後レポート
6	車いすへの移乗・移送演習		実技	実技後レポート
7	移乗・移送の基礎知識（ストレッチャーの各部名称、基本操作方法、留意点、観察点）		講義	
8	ストレッチャーへの移乗・移送演習		実技	実技後レポート
9	歩行介助、歩行補助具の種類と使用方法		講義	
10	関節可動域訓練（目的、適応）・歩行補助具の実際		実技	
11	休息の種類、睡眠障害のアセスメント、不眠の随伴症状		講義	
12	休息・睡眠への援助方法（心地よい病床環境の整備）		講義	
13	廃用症候群による身体的・心理的・社会的影響、援助方法		講義	
14	既習技術の演習（手指衛生、体位変換、シーツ交換、車椅子・ストレッチャー移乗・移送など）		実技	
15	リフレクション		グループワーク・発表	発表後レポート
評価方法				
筆記試験（100%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院（電子教科書） 看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習室で講義を行う場合は事前に連絡します。</li> <li>・演習時（実技）の服装、髪型、爪の長さなどは整えて参加してください。</li> <li>・演習後に提出物がある場合は期限を守ってください。</li> </ul>				

日常生活を整える基本技術：基礎看護学方法論Ⅱ（清潔・衣生活）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
対象の日常生活を整えるための清潔・衣生活の援助技術を学ぶ。				
授業の目標				
1. 日常生活における清潔・衣生活の意義や援助に必要な知識を理解する 2. 清潔・衣生活の援助技術を習得できる				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	清潔の意義（生理的意義、精神的意義、社会的意義）		講義	
2	健康障害時の清潔 清潔行動の観察とアセスメント		講義	
3	身体各部の清潔を保つ援助方法（入浴、シャワー浴）		講義	
4	衣生活の意義 寝衣の選択 寝衣交換		講義	
5	寝衣交換（和式寝衣・洋式寝衣）		実技	実技後レポート
6	身体各部の清潔を保つ援助方法：洗髪		講義	
7	身体各部の清潔を保つ援助方法：洗髪		デモンストレーション	
8	洗髪演習		演習	演習後レポート
9	身体各部の清潔を保つ援助方法：全身清拭		講義	
10	身体各部の清潔を保つ援助方法：全身清拭		デモンストレーション	
11	全身清拭演習		演習	演習後レポート
12	身体各部の清潔を保つ援助方法：部分浴		講義	
13	手浴、足浴		実技	実技後レポート
14	身体各部の清潔を保つ援助方法：口腔ケア		講義	
15	口腔ケア		実技	実技後レポート
評価方法				
筆記試験（80%） 演習（20%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院（電子教科書） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
演習は原理原則を理解し、グループで協力しながら確実な技術習得のために練習を重ねてください。				

日常生活を整える基本技術：基礎看護学方法論Ⅲ（食事・排泄）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次 前～後期	専任教員	有
科目のねらい				
対象の日常生活を整えるための食事・排泄の援助技術を学ぶ。				
授業の目標				
1. 日常生活における食事・排泄の意義や必要な知識を理解する。 2. 食事・排泄の援助技術を習得できる。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	食事援助の基礎知識 摂食・嚥下訓練 自然排尿及び自然排便の基礎知識 (排泄の意義・器官の機能とメカニズム・アセスメント)		講義	
2	食事介助		演習	実技レポート
3	自然排尿および自然排便の介助の実際 トイレにおける排泄援助・床上排泄・おむつによる排泄)		講義	
4	床上排泄援助（便器・尿器）デモンストレーション		講義	
5	床上排泄援助（便器・尿器）		演習	実技レポート
6	おむつによる排泄援助（おむつ交換・陰部洗浄） デモンストレーション		講義	
7	おむつ交換・陰部洗浄演習		演習	演習レポート
8	排便を促す援助の基礎知識 浣腸・摘便・ストーマケア		講義	
9	排尿を促す援助・一時的導尿と持続的導尿		講義	
10	浣腸デモンストレーション		講義	
11	浣腸演習		演習	演習レポート
12	一時的導尿デモンストレーション（1 時限）		講義	
13	一時的導尿演習		演習	演習レポート
14	非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法・中心静脈法		講義	
15	胃管挿入と固定・栄養物注入 (モデル人形使用) デモンストレーション		演習	実技レポート
評価方法				
筆記試験 (80%) 演習 (20%)				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024 第 18 版 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 2024 第 2 版 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 2023 第 1 版				
備考または学生への連絡				
看護技術は羞恥心の配慮と共に侵襲性の高い技術の為安全安楽が優先されます。実習で実践する事が多い技術となる為、原理原則を理解し、グループで多くの練習をして演習に臨んでください。				

看護の基本となる技術：基礎看護学方法論Ⅳ（バイタルサイン・フィジカルアセスメント）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
対象の身体的健康状態を、観察・評価するための基礎技術を学ぶ。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイタルサインの意義や基礎知識を理解する。</li> <li>・正確なバイタルサイン測定が行えるための援助技術が習得できる。</li> <li>・五感を用いて観察し、対象の健康状態を評価する意義と方法について理解する。</li> <li>・対象の観察で得た情報を基に、対象の状態を判断することができる。</li> </ul>				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	バイタルサイン測定の意義	講義 測定方法体験 デモンストレーション 演習	グループワーク レポート作成 演習、グループワーク後に情報の整理 アセスメントレポート作成	
2	バイタルサイン測定① 体温とその測定方法			
3	バイタルサイン測定② 脈拍、呼吸とその測定方法			
4	バイタルサイン測定③ 血圧とその測定方法、聴診器の使い方			
5	バイタルサイン測定④ 意識レベルとその観察方法、バイタルサインの記録と報告			
6	正確な測定方法と一連の技術 演習講義			
7	正確な測定方法と一連の技術 デモンストレーション			
8	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント			
9	身体計測、問診、視診、触診、打診、聴診の目的と方法			
10	呼吸器系のフィジカルアセスメント 演習講義			
11	循環器系のフィジカルアセスメント 演習講義			
12	消化器系のフィジカルアセスメント 演習講義			
13	感覚器・運動器系・中枢神経系のフィジカルアセスメント			
14	バイタルサイン測定技術・事例を用いたフィジカルアセスメント演習			
15	試験			
評価方法				
バイタルサイン 筆記試験 (80%) 演習 (20%) フィジカルアセスメント 筆記試験 (80%) 演習 (20%)				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 (電子教科書) 系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 (電子教科書) 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
内容を確認して予習復習をして下さい。資料はきちんとまとめ、毎回授業に持参して下さい。 演習は原理原則をよく理解したうえで、練習を重ね臨んでください。 演習時は指定した動きやすい服装で臨んでください。				

看護の基本となる技術：基礎看護学方法論V（看護過程）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
看護実践の方法として看護過程の意義について理解し、個別のニーズに応じた問題を解決するために科学的思考、問題解決思考に基づいた看護過程の展開方法について学ぶ。				
授業の目標				
1. 看護実践における看護過程の意義、目的を理解できる。 2. 看護過程の基盤となる考え方を理解できる。 3. 看護過程の展開の各段階を理解できる。 4. 紙上事例を用いた看護過程を展開できる。 5. 看護記録の目的と構成について理解できる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	1. 看護過程とは 1) 看護過程の概要と構成要素 2) 構成要素の関係性 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション		講義	
2	3. 看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化（看護診断） 3) 看護計画 4) 実施 5) 評価 4. アセスメントの枠組み 1) 看護過程におけるアセスメント		講義	
3	5. ゴードンの機能的健康パターン		講義	
4	1) ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント		個人ワーク グループワーク	
5				
6	6. 問題の明確化と看護診断 1) アセスメントから看護診断へ 2) NANDA-I 看護診断分類		講義	
7	7. 全体像（関連図）とは 1) 全体像（関連図）の作成 2) 看護診断、優先順位の決定		講義、個人ワーク グループワーク	
8	8. 看護計画 1) 看護計画の構成要素		講義、個人ワーク グループワーク	
9	9. 実施・評価		講義、個人ワーク グループワーク	
10	10. 事例展開		講義	
11	1) 紙上事例の紹介 2) 情報の収集・整理		個人ワーク	
12	3) アセスメント・全体像（関連図） 4) 看護問題の明確化（看護診断）		グループワーク	
13	5) 看護計画 6) 実施 7) 評価			
14	11. 看護記録（1h） 1) 看護記録の意義、種類 2) 記載・管理における留意点		講義	
15	紙上事例のまとめ		講義	
16	筆記試験			
評価方法				
筆記試験（50%） 事例展開提出物評価（50%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院（電子教科書） NANDA-I 看護診断定義と分類 医学書院 2022 疾患別看護過程の展開 学研 2022				
参考図書・参考文献				
はじめて学ぶ看護過程 医学書院 2022 他、関連科目、特に形態機能学、疾病と治療等の教科書を活用する。				
備考または学生への連絡				
看護過程は対象に適切な看護援助を提供するための基本となる問題解決方法論であり、臨地実習で展開できることが求められます。科学的で論理的な思考プロセスを修得するために、主体的に取り組むことを期待します。				

診療に伴う技術：基礎看護学方法論VI（与薬）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
診療補助の基盤となる技術と援助を学ぶ。				
授業の目標				
1. 診療補助としての与薬の意義、目的を理解する 2. 安全な与薬の方法・技術の基礎的知識を理解する 3. モデル人形を用いての輸液管理の実際や、筋肉内注射の技術が習得できる				
DP との対応		看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	与薬の意義		講義	
2	薬物療法における援助過程と与薬の技術		講義	
3	経口与薬、経皮的与薬、その他の与薬		講義	
4	吸入、外用薬（点眼、点鼻、点耳）、直腸内与薬		講義	
5	注射（基礎知識・技術の概要）		講義	
6	皮下注射・皮内注射		講義	
7	アンプルからの吸い上げ		講義・実技	事前レポート作成
8	筋肉内注射、静脈内注射		講義	
9	筋肉内注射		デモンストレーション	
10	筋肉内注射		演習	演習後レポート
11	点滴静脈内注射、静脈留置針による点滴内注射		講義	
12	中心静脈カテーテル		講義	
13	輸血管理		講義	
14	点滴静脈内注射の輸液管理の実施		実技	実技後レポート
15	リフレクション		グループワーク	
評価方法				
筆記試験（80%） 演習（20%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院（電子教科書） 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院（電子教科書） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第2版 メディックメディア 2024 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 2021 KAN-TAN 看護の計算・数式 医学書院 2009 今日の治療薬 2024 南江堂 2024				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
与薬という看護行為が患者の生命を脅かす危険性を伴うことを理解し、授業に臨みましょう。確実な基礎知識の習得が安全安楽な与薬の援助につながりますので、繰り返しの復習と技術練習を積み重ねてください。授業の進度によって、授業内容等が変更になる場合があります。				

診療に伴う基本技術：基礎看護学方法論Ⅶ（診察補助）				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次 前期	専任教員	有
科目のねらい				
診察・検査・処置を受ける患者の看護の役割と援助を学ぶ。				
授業の目標				
1. 診察・検査時の看護の意義と役割を理解する。 2. 学習支援の対象者と看護の役割について基礎的知識を学ぶ。 3. モデル人形を用いての静脈内採血技術が習得できる。				
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査（尿検査・便検査・喀痰検査） 生体情報のモニタリング（心電図モニター・Spo2 モニター・ 血管留置カテーテルモニター）		講義	
2	診察の介助 検査・処置の介助① （X線撮影・CT・MRI・核医学検査・内視鏡検査）			
3	検査・処置の介助② （超音波検査・心電図・肺機能検査・穿刺）			
4	検体検査（血液検査） 静脈血採血技術			
5	静脈血採血：デモンストレーション		実技	事前レポート
6	静脈血採血演習		演習	演習レポート
7	学習支援		グループワーク	
評価方法				
筆記試験（80%） 演習（20%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2024 第19版（電子教科書） 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2024 第18版（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 2023 第1版				
備考または学生への連絡				
演習は原理原則をよく理解した上で、練習を重ねて臨んでください。授業進度を確認しながら復習をしてください。				

診療に伴う基本技術：基礎看護学方法論Ⅷ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次前期	専任教員 他	有
科目のねらい				
健康障害時の対象の症状に応じて緩和を図るための技術と援助を学ぶ。				
授業の目標				
健康障害時に生じる症状について理解する 対象の症状に応じた援助技術を習得できる				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	体温の基礎知識 体温管理の技術 褥法の基礎知識		講義	
2	温褥法 冷褥法		講義	
3	褥法演習		講義・実技	実技後レポート
4	呼吸とは 呼吸の生理的メカニズム ガス交換 呼吸のニードに関するアセスメント		講義	
5	酸素吸入療法 吸引		講義	
6	気管内加湿法（吸入法） 排痰ケア		講義	
7	体位ドレナージ演習		学生間での実技	実技後レポート
8	一時的吸引・吸入演習、酸素ボンベの取り扱い		モデル人形を使用し 実技	実技後レポート
9	安楽の意義 安楽を確保するための援助		講義	
10	身体の安楽を促すケア		講義・グループワーク	
11	創傷管理の基礎的知識 創傷治癒過程とは 医療用テープ		講義	
12	創傷の評価方法 外用薬・ドレッシング剤・包帯法		講義・実技	
13	褥瘡について 褥瘡の評価 褥瘡予防の方法		講義・実技	
14	褥瘡予防の技術		講義・実技	
15	まとめ 試験		試験	
評価方法				
体温調節の技術・呼吸を楽にする技術・安楽を確保するための技術 筆記試験（100%） 皮膚創傷を管理する技術 筆記試験（100%）				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院（電子教科書） 看護がみえる vol.1 基礎看護技術、看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア				
参考図書・参考文献				
看護過程に沿った対症看護 学研				
備考または学生への連絡				
演習で行う看護技術は実習で経験する看護技術です。患者にとって「安全安楽な看護技術」や「安楽とは」について考え、確実な知識と正確な技術、倫理的配慮を学びながら習得してください。				

基礎看護技術の統合				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	15 時間	1 年次 後期	専任教員	有
科目のねらい				
対象の日常生活を整えるための基本的な援助技術を統合して学ぶ。				
授業の目標				
1. 既習の知識を基に対象の情報を整理できる 2. 情報を基に対象の反応を考えることができる 3. 対象の日常生活を整えるための一連の援助技術を実施できる				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	看護技術とは 講義全体についてのオリエンテーション		講義 グループワーク	事前レポート作成
2	事例の情報を基に、援助計画立案		講義 グループワーク	事前レポート作成
3			グループワーク	事前レポート作成
4			グループワーク	事前レポート作成
5			グループワーク	事前レポート提出
6	技術練習		グループワーク	
7	技術試験		技術試験	
8	リフレクション (1 h)		グループワーク	振り返りレポート
評価方法				
技術試験 (60%) 事前レポート (30%) 振り返りレポート (10%)				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I・II 医学書院 (電子教科書) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア				
参考図書・参考文献				
疾患別看護過程の展開 学研				
備考または学生への連絡				
グループでの意見交換をし、技術試験に向けて計画的に事前レポートに取り組みましょう。 各自主体的に技術練習を行いながら、知識と技術の統合をはかってください。 次年度に向けて、自己の課題を明確にしていきましょう。				

臨床看護学総論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
看護の対象者に共通する、健康状態および症状に応じた看護の基礎について学び、臨床に適応できるように知識や技術を統合する。				
授業の目標				
1. 疾病の経過の概念と、各経過における看護の特徴について理解できる。 2. あらゆる対象に起こりうる代表的な症状の原因、誘因およびメカニズムと成り行き、看護のポイントについて理解できる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	臨床における看護の特徴		講義・演習	
2	看護師の臨床判断プロセス			
3	疾病の経過と看護 ①急性期 ②慢性期			
4	疾病の経過と看護 ③回復/リハビリテーション期 ④終末期			
5	主要症状に応じた看護 ※頭痛、呼吸困難/喀痰・咳嗽、発熱/低体温、便秘・下痢、嘔気・嘔吐、腹部膨満など			
6	主要症状に応じた看護 ※腹痛、多尿・乏尿・無尿/浮腫、倦怠感、感覚障害のある患者の看護 など			
7	多職種役割、多職種間との協働と連携、チーム医療の仕組み			
評価方法				
筆記試験 (80%) 演習 (20%)				
教科書				
系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(5) 臨床看護総論 メディカ出版 新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 看護過程に沿った対症看護 学研				
備考または学生への連絡				
実習体験を想起し意味づけて学んでいきます。				

地域・在宅看護論 I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	1 年次後期	専任教員・外部講師	有
科目のねらい				
自分の生活している地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を知り、各種の社会制度や地域ケアシステムと人々の生活との関連性を学ぶ。				
授業の目標				
地域での生活や療養を支える制度や社会資源について学び、住み慣れた地域で自分らしく生活することとの関連性を理解する。				
DP への対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="radio"/>	主体的学修姿勢
	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	
	<input checked="" type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/>	
単 元	回	授業内容	授業方法	学習課題
人々の暮らしと地域・在宅看護	1	社会の変化と地域・在宅看護の意義 人々の暮らしの理解 ・暮らしとは、多様性と共通性	講義 演習	
	2	暮らしと地域 暮らしと健康の関係		
暮らしの基盤としての地域の理解	3	暮らしの基盤としての地域を理解する 自分の暮らす地域の「暮らしと健康」を捉える		
在宅療養を支える制度・社会資源	4	地域での生活や療養を支える制度や社会資源 地域・在宅看護が提供される場		
	5	在宅療養者の理解とそれを支える社会資源の 実際		
	6	在宅における函館厚生院の関係施設学習： 地域包括支援センター、通所系サービス、 訪問系サービス、施設型サービス等		
	7	健康障害がある人も地域で暮らし続けるために必要なこと（グループワーク発表）		
	8	試験（1時間）		
評価方法				
演習 20%、筆記試験 80%で評価する。				
教科書				
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1]：地域・在宅看護の基盤 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
随時紹介します。				
備考または学生への連絡				

地域・在宅看護論Ⅱ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年次前期	専任教員	有	
科目のねらい					
地域・在宅看護の対象と基盤となる概念、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について学ぶ。					
授業の目標					
1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景を理解する 2. 在宅看護の対象者とその生活を理解する 3. 在宅看護の対象者として家族を捉え、家族支援の重要性を理解する 4. 地域包括ケアシステムと看護活動の実際について理解する					
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	○	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
単 元	回	授業内容	授業方法	学習課題	
地域・在宅看護の概念	1	地域・在宅看護の背景	講義		
	2	地域・在宅看護の役割・機能			
地域・在宅看護の対象	3	地域・在宅看護の対象者① 地域社会における生活者としての対象者、ライフサイクル、健康レベル、法制度	講義 個人演習 (一部グループ演習)	個人演習 課題提出	
	4	地域・在宅看護の対象者② 疾患、障害レベル、状態別・状況別、生活の場			
	5	在宅療養における家族の捉え方			
	6	在宅療養者の家族への看護			
地域包括ケアシステムにおける看護の役割	7	地域包括ケアシステムの概要、看護の役割	講義		
	8	暮らしと健康をアセスメントするための視点と方法			
	9	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機能連携			
	10	自己決定支援、権利擁護の意義 在宅看護におけるケアマネジメント、社会資源の活用			
地域における看護活動の実際	11	①地域包括支援センター、在宅看護支援センター	講義		
	12	②行政保健(保健所・市町村)			
	13	③学校、職域			
	14	④訪問看護			
	15	まとめ (1 時間)			
	16	試 験 (1 時間)			
評価方法					
筆記試験 100%で評価する。					
教科書					
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [1]: 地域・在宅看護の基盤	医学書院 (電子教科書)		
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [2]: 地域・在宅看護の実際	医学書院 (電子教科書)		
参考図書・参考文献					
随時紹介します。					
備考または学生への連絡					

地域・在宅看護論Ⅲ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	外部講師	有	
科目のねらい					
地域ケアシステムにおける在宅看護の役割と保健医療福祉サービスの連携について学習する					
授業の目標					
1. 地域療養を支える諸制度について理解する 2. 訪問看護制度の仕組みを理解する					
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	○	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
単 元	回	授業内容	授業方法	学習課題	
地域療養を支える制度	1	医療保険制度、後期高齢者医療制度 介護保険制度	講義		
	2	生活保護制度、障害者を支援する制度 難病療養者を支援する制度			
	3	小児の在宅療養を支援する制度 在宅で活用できる権利擁護			
訪問看護の制度	4	訪問看護の対象者の特徴 訪問看護ステーションに関する規定	講義		
	5	訪問看護の利用			
	6	訪問看護サービスの提供、訪問看護の記録			
	7	在宅看護における安全管理 災害対策			
	8	試験(1 時間)			
評価方法					
筆記試験 100%で評価する。					
教科書					
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [1] : 地域・在宅看護の基盤	医学書院 (電子教科書)		
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [2] : 地域・在宅看護の実践	医学書院 (電子教科書)		
国民衛生の動向	厚生労働統計協会				
参考図書・参考文献					
随時紹介します。					
備考または学生への連絡					

地域・在宅看護方法論Ⅳ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	外部講師・専任教員	有
科目のねらい				
在宅療養者とその家族に対する看護実践のために必要な知識・技術について対象の状態をふまえて学習する。				
授業の目標				
在宅療養者の状況に応じた看護について学び、実践に活かすことができる。				
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容	授業方法	学習課題	
1	在宅における生活の援助技術 (療養環境、活動・休息、食生活・嚥下、清潔・衣生活)	講義 (外部講師)		
2	在宅における家族を支える看護 在宅療養準備期、在宅療養移行期、在宅療養安定期の看護			
3	急性増悪期、終末期の看護			
4	主な疾患等に応じた在宅看護(認知症、虐待防止)			
5	主な疾患等に応じた在宅看護 (脳血管疾患、難病)			
6	主な疾患等に応じた在宅看護 (精神疾患)	講義 (専任教員)		
7	主な疾患等に応じた在宅看護 (医療的ケア児)	講義 (専任教員)		
8	試験 (1 時間)			
評価方法				
筆記試験 100% で評価する。				
教科書				
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [1]: 地域・在宅看護の基盤	医学書院 (電子教科書)	
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論 [2]: 地域・在宅看護の実践	医学書院 (電子教科書)	
よくわかる在宅看護	学研	2020		
参考図書・参考文献				
資料はその都度配布				
備考または学生への連絡				

地域・在宅看護方法論Ⅴ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	外部講師	有
科目のねらい				
在宅療養者とその家族に対する看護実践のために必要な知識・技術について学習する。				
授業の目標				
在宅での医療的援助における基本的なアセスメントや援助の技術を学び、実践に活かすことができる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="radio"/>	主体的学修姿勢
単 元	回	授業内容	授業方法	学習課題
在宅における 医療処置と看護	1	医療ケアの原理原則 褥瘡管理、足病変のケア	講義	
	2	食生活に関するケア、在宅経管栄養法、 胃ろう、在宅中心静脈栄養法		
	3	在宅酸素療法(HOT)、気管カニューレ管理		
	4	在宅人工呼吸療法、排痰ケア		
	5	排尿ケア、排便ケア、 尿道留置カテーテル管理、ストーマ管理		
	6	与薬/薬物療法、がん外来化学療法 インスリン自己注射		
	7	疼痛管理		
	8	試験(1 時間)		
評価方法				
筆記試験 100%で評価する。				
教科書				
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2]: 地域・在宅看護の実践 医学書院 (電子教科書) よくわかる在宅看護 学研 2020				
参考図書・参考文献				
随時紹介します。				
備考または学生への連絡				

地域・在宅看護方法論VI				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
事例学習を通して在宅療養者と家族の健康問題をアセスメントし、援助する方法について学習する。				
授業の目標				
在宅療養者および家族の特徴および状態に応じた在宅看護実践について、事例展開・ロールプレイを通して理解を深める。				
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	・講義展開方法について ・全体で事例学習		講義 個人演習	個人演習課題提出
2	・情報の分類・整理と判断		講義・グループ演習	グループ演習記録提出
3	・情報の分類・整理と判断 ・アセスメント・期待する結果・具体策		講義 グループ演習	グループ演習記録提出
4	・アセスメント・期待する結果・具体策		グループ演習	グループ演習記録提出
5	・ロールプレイについて ・アセスメント・期待する結果・具体策 ・フォーカスクエスチョンに沿った援助をロールプレイで発表する準備		講義 グループ演習	グループ演習記録提出
6	・フォーカスクエスチョンに沿った援助をロールプレイで発表する準備 ・資料印刷・配布		グループ演習	グループ演習記録提出
7	・ロールプレイ発表・評価		ロールプレイ グループ演習	グループ演習記録提出 個人レポート提出
評価方法				
グループの取り組み（看護過程展開内容、ロールプレイング発表内容、グループとしてのグループワーク取り組み〈記録類提出状況も含む〉）50%、個人の取り組み（個人記録内容、レポート内容、グループワーク参加姿勢、出席状況）50%で評価する。				
教科書				
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1]：地域・在宅看護の基盤 医学書院（電子教科書） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2]：地域・在宅看護の実践 医学書院（電子教科書） よくわかる在宅看護 学研 2020				
参考図書・参考文献				
ペーパーペイシエントを理解するために、疾患や薬剤、介護保険等サービスを調べるための文献が必要				
備考または学生への連絡				
5月から始まる地域・在宅看護論実習に活用できるよう、各自の努力を期待します。				

成人看護学概論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	1 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
成人期の成長発達、身体機能の特徴と成人の生活について学ぶ。また、成人期に見られる健康障害を生活との関連から理解し、看護に必要となる概念について学ぶ。				
授業の目標				
1. 成人看護学の基本的な考え方と他の看護領域との関連を理解できる。 2. 成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 3. 成人の生活の特徴と健康問題について理解できる。 4. 成人保健の動向に関連した保健対策の現状について理解できる。 5. 様々な健康レベルにある対象の特徴を知り、健康レベルに応じた看護の特徴を理解できる。 6. 成人看護に有効な理論の概略について理解できる。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	○	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	1. 成人看護学の概念と構成 2. 成人を取り巻く環境と生活（ライフスタイルの特徴、仕事、家族）		講義	
2	3. 成人期にある人の理解 ①ライフサイクルにおける成人期 ②成人期の成長発達・発達課題		講義・グループワーク グループワーク発表	
3	③成人各期の特徴、健康問題 ④成人の生活 (身近な成人期にある人々へのインタビュー)			
4	③成人各期の特徴、健康問題 ④成人の生活			
5	③成人各期の特徴、健康問題 ④成人の生活			
6	③成人各期の特徴、健康問題 ④成人の生活			
7	4. 成人期にみられる健康問題 ①生活習慣に関連する健康問題と対策			
8	②職業に関連する健康問題と対策			
9	③ストレスに関連する健康問題と対策			
10	5. 成人保健・健康の動向と対策			
11	6. 成人の健康レベルに応じた看護の特徴と有用な概念、継続的な移行支援 1)①慢性期・回復期			
12	②急性期 ③終末期			
13	2)①アンドロロジ ②エンパワメント ③痛みの軌跡			
14	④セルフケア ⑤危機 ⑥自己効力			
15	成人期のまとめ (1 時間)			
16	試験 (1 時間)			
評価方法				
筆記試験 100%				
教科書				
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
①公衆衛生がみえる, メディック・メディア ②国民衛生の動向, 厚生労働統計協会 ③ナーシング・グラフィカ成人看護学① 成人看護学概論, メディカ出版				
備考または学生への連絡				
成人である自己を理解するとともに、自分の周囲の青年期から向老期の人々の成長・発達、健康、生活に関心を向けて学習を深めて下さい。成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人・老年看護学実習の基盤となる考え方を学びます。				

成人看護学方法論 I					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	1 年後期	外部講師	有	
科目のねらい					
慢性疾患など長期にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を理解し、患者および家族に対するセルフケアの促進や慢性的経過をたどる疾患との共存を支える看護について理解する。					
授業の目標					
主要な慢性疾患患者と家族に対してセルフケアを促し、慢性疾患との共存を支える援助、看護について理解できる。					
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	循環器	1. 循環機能障害のある患者の看護 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 主要な症状と看護 3) 心筋梗塞患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 ②セルフケアの促進に向けた看護		講義 教科書②	
2		4) 心臓カテーテル検査と検査前・中・後の看護			
3		5) ペースメーカー挿入患者への看護			
4		6) 心臓リハビリテーションと日常生活指導			
5		7) 危険因子への対応 (1h)			
6	呼吸器	2. 呼吸機能障害のある患者の看護 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 主要な症状と看護 3) 肺癌の種類 4) 肺癌患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 ②セルフケアの促進に向けた看護 ③外科療法・化学療法・放射線療法に伴う看護		講義 教科書①	
7		5) 慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 ②セルフケアの促進に向けた看護			
8		6) 肺疾患患者の看護			
9		7) 在宅酸素療法時の看護 (1h)			
10					
11	消化器	3. 肝機能障害のある患者の看護 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 主要な症状と看護 3) 急性・慢性肝炎患者の看護 (インターフェロン療法) ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 ②セルフケアの促進に向けた看護		講義 教科書③	
12		4) 肝硬変患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 (肝生検含む) ②セルフケアの促進に向けた看護 ※事例			
13		5) 肝がん患者の看護 (肝動脈塞栓療法) ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 ②セルフケアの促進に向けた看護			
14		4. 消化・吸収障害のある患者の看護 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 主要な症状と看護			
15		3) 胃・十二指腸疾患患者の看護 4) 胃がん患者の看護 (1h)			
評価方法					
筆記試験 (100%) 3 回					
教科書					
①系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 (電子教科書)					
②系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 (電子教科書)					
③系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
講義の中でその都度提示します。					
備考または学生への連絡					
実習で活用できる知識が多くあります。しっかり学習し、実習で活かせるよう取り組んでください。					

成人看護学方法論Ⅱ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	1 年後期	外部講師	有	
科目のねらい					
1. 慢性疾患など長期にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を理解し、患者および家族に対するセルフケアの促進や慢性的経過をたどる疾患との共存を支える看護について理解する。 2. 回復期におけるセルフケアの低下状態にある対象について理解し、回復段階に合わせて心身の回復とセルフケアの再獲得を支援する看護について学ぶ。					
授業の目標					
1) 主要な慢性疾患患者と家族に対してセルフケアを促し、慢性疾患との共存を支える援助、看護について理解できる。 2) ①主要な機能障害における回復期の患者の特徴と、看護の役割と方法が理解できる。 ②回復段階に合わせて回復を促す具体的な看護の方法が理解できる。					
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	糖代謝	1. 糖代謝障害のある患者の看護 1) 糖尿病患者の看護 ①検査・治療に伴う看護 ②アセスメント ③主な症状に対する看護 ④フットケア		講義 教科書① 演習	
2		2) セルフマネジメントとケア ①食事・運動療法の指導 ②糖尿病の合併症予防と生活指導			
3		3) 自己血糖測定演習			
4	腎系	2. 腎機能障害のある患者の看護 1) 腎不全患者の看護 ①検査に伴う看護 ②急性腎不全・慢性腎不全の治療と看護		講義 教科書③	
5		③アセスメント ④主な症状に対する看護			
6		2) セルフマネジメントとケア (血液透析、腹膜透析の管理)			
7	脳・神経系	1. 脳・神経疾患患者の概況と看護 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 疾患をもつ患者の経過と看護 3) 主要な検査、症状・障害と看護 ①意識障害、言語障害、運動麻痺		講義 教科書②	
8		②運動失調・不随意運動、痙攣、筋力低下、感覚障害、嚥下障害、排泄障害			
9		4) クモ膜下出血患者の看護 5) 脳梗塞患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護 (薬物、リハビリテーション含む) ②セルフケアを再獲得し適応するための看護			
10		6) 脳腫瘍患者の看護			
11	運動器	2. 運動機能障害のある患者の看護 (骨・関節) 1) 患者の特徴とアセスメント 2) 主要な検査、症状、治療処置と看護 (骨折、牽引、固定含む)		講義 教科書④	
12		3) 上肢・下肢の骨折、骨折の合併症 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護、主な症状に対する看護			
13		4) 変形性関節症患者の看護 ①アセスメント、検査・治療に伴う看護、主な症状に対する看護 ②セルフケアを再獲得し適応するための看護			
14		5) 関節リウマチ患者の看護 6) 運動器疾患における周手術期から回復期の看護 (リハビリテーション含む) 7) 運動機能障害のある患者の看護 (脊髄・脊椎) ①脊椎圧迫骨折 ②脊髄損傷患者の看護 ③腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 ④頸椎・腰椎疾患患者の看護			
評価方法					
筆記試験 (100%) 2 回					
教科書					
①系統看護学講座 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 (電子教科書)					
②系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 (電子教科書)					
③系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 (電子教科書)					
④系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
講義の中でその都度提示します。					
備考または学生への連絡					
実習で活用できる知識が多くあります。しっかり学習し、実習で活かせるよう取り組んでください。					

成人看護学方法論Ⅲ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年前期	外部講師	有	
科目のねらい					
急性期にある対象やがんにより危機状況にある患者・家族の特徴について理解し、危機を脱して患者と家族が主体的に生きるための看護について学ぶ。また、代表的な周手術期の特徴と看護、化学療法・放射線療法をうける患者の看護について学ぶ。					
授業の目標					
1. 救急看護、集中治療を受ける患者の看護について理解できる。 2. 手術療法を受ける患者の看護（手術前、手術中、手術後）について理解できる。 3. 手術療法を受ける患者の看護の実際について理解できる。 4. 化学療法・放射線療法をうける患者の看護について理解することができる。					
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	救急看護	1. 救急看護の特徴 1) 救急患者とその家族の特徴		講義 教科書①⑤ ⑥	
2		2) ICU 入室患者の特徴と看護			
3		2. 救命救急・集中治療を必要とする患者の看護			
4	外科総論	3. 手術を受ける患者の理解 1) 周手術期看護の概要と手術侵襲による生体反応		講義 教科書①②	
5		2) 手術中の看護			
6		3) 手術後の看護（3 h）			
7	外科各論	4. 手術療法を受ける患者の看護の実際 1) 性・生殖器機能障害で手術を受ける患者の看護（術前・術後、退院までの看護） ①乳腺疾患患者の看護		講義 教科書②④	
8					
9		2) 消化機能障害で手術を受ける患者の看護（術前・術後、退院までの看護） ①人工肛門造設術を受ける患者の看護 ②胃切除術を受ける患者の看護		講義 教科書②③	
10		3) 術後の機能障害や生活制限への看護 ①ボディイメージの変容への支援 ②退院調整 ③機能訓練 ④セルフケア能力の獲得 (※11 回目 1 h)			
11					
12	がん看護	5. がん看護 1) がん患者の抱える苦痛 2) がん患者の生活上の困難 3) 意思決定支援 4) がん患者の社会参加への支援		講義 教科書⑦	
13		5) 化学療法を受ける患者の看護 6) 外来看護			
14		7) 手術療法を受ける患者の看護 8) 放射線療法を受ける患者の看護			
評価方法					
筆記試験（100％） 試験 2 回					
教科書					
①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院（電子教科書） ②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院（電子教科書） ③系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院（電子教科書） ④系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院（電子教科書） ⑤系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院（電子教科書） ⑥系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院（電子教科書） ⑦系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院（電子教科書）					
参考図書・参考文献					
講義の中でその都度提示します					
備考または学生への連絡					
実習で活用できる知識が多くあります。しっかり学習し、実習で活用できるように取り組んで下さい。					

成人看護学方法論Ⅳ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年前期	専任教員	有
科目のねらい				
事例を用い、成人期の対象と看護の理解を深める。さらに、成人看護学で活用される技術の演習を実施することにより、看護実践の基礎能力を高める。				
授業の目標				
1. 成人期の状態に応じた看護が事例を通して理解できる。 2. 事例の健康状態における代表的な看護技術が演習を通して理解できる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	主体的学修姿勢
			<input type="radio"/>	
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	周手術期にある患者に応じた看護の事例展開 事例 1. ①手術帰室後 30 分の観察 ②早期離床の看護		講義 DVD 視聴	
2	事例 1. ①手術帰室後 30 分の観察 ②早期離床の看護		グループワーク	
3	周手術期にある患者に応じた看護の事例展開 事例 2. 術後 4 日目の事例展開 アセスメント・関連図・看護診断・看護計画		講義	
4	事例 2. 術後 4 日目の事例展開 アセスメント・関連図・看護診断・看護計画		グループワーク	
5	事例 2. 術後 4 日目の事例展開 アセスメント・関連図・看護診断・看護計画		グループワーク	
6	事例 2. 術後 4 日目の事例展開 アセスメント・関連図・看護診断・看護計画		グループワーク	
7	周手術期にある患者に応じた看護の事例展開 事例 1. ①手術帰室後 30 分の観察 ②早期離床の看護		演習 グループ演習	
評価方法				
事例展開課題レポート、演習課題レポート、講義・演習参加状況により総合的に評価する。合計 100 点				
教科書				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 医学書院 (電子教科書) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
講義の中でその都度提示します。				
備考または学生への連絡				
実習で活用できる知識が多くあります。しっかり学習し、実習で活用できるように取り組んで下さい。				

成人看護学方法論Ⅴ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次前期	外部講師	有
科目のねらい				
終末期ケアを必要とする患者および家族の特徴を理解し、その状況に応じた看護について学ぶ。				
授業の目標				
1. 終末期にある対象の全人的苦痛について理解できる。 2. 終末期にある患者の特徴を理解し、様々な治療法と看護について理解できる。 3. 終末期にある対象の家族ケアについて理解できる。 4. 看取りのケアについて理解できる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	1. 緩和ケア、終末期看護の概要 1) 緩和ケアの歴史と現状 2) 緩和ケアの理念 3) チームアプローチ		講義 教科書①	
2	2. 緩和ケアにおける倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 意思決定支援 3) 緩和ケアをめぐる倫理的課題			
3	3. がんの痛みのある患者の看護			
4	4. 終末期にある患者の特徴と援助 1) 全人的苦痛、死の受容過程 2) 身体症状のマネジメントとケア (疼痛コントロール、その他の主要な症状)			
5	3) 精神・社会的ケア、スピリチュアルケア 4) 日常生活援助 5) 家族ケア			
6	5. 緩和ケアにおけるコミュニケーション 6. 療養の場の広がり 1) 病院、施設における看護 2) 在宅における看護			
7	7. 臨死期のケア、死の看取りの援助 8. 悪性腫瘍における緩和ケア 1) 事例に基づいた終末期患者の看護			
評価方法				
筆記試験 (100%) 1 回				
教科書				
①系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 (電子教科書)				
②系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
講義の中でその都度提示します。				
備考または学生への連絡				
実習で活用できる知識が多くあります。しっかり学習し、実習で活用できるように取り組んで下さい。				

老年看護学概論						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	30 時間	1 年次後期	専任教員	有		
科目のねらい						
老年期の理解、高齢者看護の基本、高齢社会の保健医療福祉対策の動向と現状について学ぶ。						
授業の目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の特徴と健康、QOL について理解する。</li> <li>・高齢者看護の基本について理解する。</li> <li>・高齢者と家族・支える制度や社会資源等、高齢者のとりまく社会について理解する。</li> </ul>						
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	加齢と老化 身体的側面、心理的側面、社会的側面		講義			
2	発達と成熟 老年期の発達課題 エリクソン、ペック、ハヴィガースト、スピリチュアリティ					
3	超高齢社会の現況 高齢者と家族					
4	高齢者の健康状態、高齢者の死亡、高齢者の暮らし					
5	高齢社会における保健医療福祉の動向					
6	高齢社会における保健医療福祉の動向					
7	高齢者疑似体験		演習	演習レポート		
8	高齢者の権利擁護 高齢者虐待、身体拘束、成年後見制度、日常生活支援事業		講義			
9	老年看護のなりたち 老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用 老年看護に携わるものの責務					
10	高齢者のヘルスアセスメント ヘルスアセスメントの基本 高齢者総合機能評価 (CGA)					
11	身体に加齢変化とアセスメント 皮膚とその付属器、視覚、聴覚とその他の感覚 (平衡覚、味覚、嗅覚)					
12	身体に加齢変化とアセスメント 循環系、呼吸器系					
13	身体に加齢変化とアセスメント 消化器系、ホルモンの分泌、泌尿生殖器					
14	身体に加齢変化とアセスメント 運動器 ロコモティブシンドローム、サルコペニア					
15	まとめ					
評価方法						
高齢者疑似体験：20% 筆記試験：80%						
教科書						
① 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 (電子教科書)						
② 系統看護学講座 老年看護病態疾病論 医学書院 (電子教科書)						
参考図書・参考文献						
国民衛生の動向 厚生労働統計協会 公衆衛生が見える メディックメディア						
備考または学生への連絡						
統計的な知識や老年看護学の基盤になることを学んでいきます。毎回の知識を積み重ねて欲しいと思います。						

老年看護学方法論 I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
高齢者の残存能力や残存機能を活用して自立に向けた日常生活援助について学ぶ。				
授業の目標				
高齢者の身体的特徴を理解した上でアセスメントし、援助方法について理解できる。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	コミュニケーション 高齢者のコミュニケーションと関わり方の原則 コミュニケーション能力のアセスメント 高齢者の状況、状況に応じたコミュニケーションの方法		講義	
2	日常生活を支える基本的活動 基本動作と環境のアセスメント			
3	日常生活を支える基本的援助活動 転倒のアセスメントと看護 廃用症候群のアセスメントと看護			
4	食事・食生活 高齢者における食生活の意義 高齢者に特徴的な変調 食生活のアセスメント 食生活の支援			
5	排泄 高齢者の排泄ケアの基本 排尿障害のアセスメントとケア 排便障害のアセスメントとケア			
6	清潔 清潔の意義 高齢者に生じやすい清潔に関する健康支援 清潔のアセスメント 清潔の援助			
7	生活リズム 高齢者と生活リズム 高齢者に特徴的な変調 生活リズムのアセスメント 生活リズムを整える看護 セクシュアリティ 社会参加			
評価方法				
筆記試験 100%				
教科書				
① 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
老年看護学概論の知識を基にしながら援助方法について理解し、実習で活かせるようにしてください。				

老年看護学方法論Ⅱ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年次後期	外部講師	有	
科目のねらい					
老年期にある対象の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護について学ぶ					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の疾患の特徴を理解できる。</li> <li>・認知症・うつ・せん妄、治療を受ける高齢者の看護について理解できる。</li> <li>・高齢者の終末期看護について理解できる。</li> </ul>					
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	高齢者の疾患の特徴			講義	
2	認知症、精神・神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、				
3	内分泌・代謝疾患、自己免疫疾患、血液疾患、腎・泌尿器疾患、				
4	運動器疾患、皮膚疾患、感覚器疾患、歯・口腔の疾患、感染症				
5	老年症候群 老年症候群の特徴 おもに急性疾患、慢性疾患に付随する症候 おもに ADL 低下に合併する症候 フレイル			講義	
6	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価				
7	認知症機能障害のある高齢者の看護 うつ、せん妄				
8	認知症機能障害のある高齢者の看護 うつ せん妄 認知症				
9	高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉および施設における看護				
10	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全 高齢者と救命救急 高齢者と災害			講義	
11	治療を必要とする高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護 薬物療法を受ける高齢者の看護				
12	治療を必要とする高齢者の看護 手術療法を受ける高齢者の看護				
13	治療を必要とする高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護				
14	エンドオブライフケア エンドオブライフケアの概念、「生きること」を支えるケア 意思決定への支援、アドバンスケアプランニング、末期段階に求められる援助				
15	試験				
評価方法					
筆記試験 (100%) 3 回					
教科書					
① 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 (電子教科書)					
② 系統看護学講座 老年看護病態疾病論 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					
高齢者の疾患の特徴を理解し実習で活かせるように取り組んでください。					

老年看護学方法論Ⅲ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
事例学習を通して高齢者の看護を理解することができる。				
授業の目標				
高齢者の事例展開を通して、患者の状態に合わせた援助について学ぶ。				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	事例展開の要項説明		講義 個人演習	個人演習 事前学習提出
2	情報の分類・整理、アセスメント		講義 個人演習	個人演習
3	情報の分類・整理、アセスメント		講義 個人演習	個人演習
4	期待する結果、具体的計画		講義 個人演習	個人演習
5	ロールプレイについて		講義 グループ演習	グループ演習記録提出
6	ロールプレイで発表する準備		グループ演習	グループ演習記録提出
7	ロールプレイ発表・評価		ロールプレイ グループ演習	グループ演習記録提出 個人レポート提出
評価方法				
個人の取り組み（出席状況：30%、事前学習：30%、演習後の個人レポート：10%）：70% グループワークの取り組み（グループワークの取り組み：20%、ロールプレイの参加状況：10%）：30%				
教科書				
① 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 （電子教科書） ② 系統看護学講座 老年看護病態疾病論 医学書院（電子教科書） ③ 疾患別 看護過程の展開 学研				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
高齢者の理解を深め、対象のQOLを考えて計画立案してください。 1人1人が主体的に取り組んで欲しいと思います。				

小児看護学概論						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	30 時間	2 年次前期	専任教員	有		
科目のねらい						
<p>小児看護の理念、歴史と意義、子どもの権利について学び、子どもの権利を擁護する小児看護のあり方を学ぶ。子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療の現状と課題、子どもの法律・施策について学び、小児看護のもつ課題について考える。</p> <p>小児看護で用いられる理論や子どもの成長発達について学び、子どもやその家族を理解することにより、子どもと家族の発達課題、成長発達を支援する看護実践へつなげられる知識とする。</p>						
授業の目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護の理念、家族とともに子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を学ぶ。</li> <li>・子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療を理解し、小児看護の課題について学ぶ。</li> <li>・看護理論を活用して子どもとその家族を理解する能力を習得する。</li> <li>・子どもの成長発達の特徴を理解し、発育・発達の評価について学ぶ。</li> <li>・子どもの成長発達の特徴を理解し、日常生活の援助に必要な知識と支援について学ぶ。</li> </ul>						
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	小児看護とは、小児看護の歴史と意義、子どもの権利と看護		講義を基本とし、授業内容によってGWを取り入れる。	授業内容により ・レポート他、課題あり ・視覚教材使用 (VHS・DVD) ・小テストを3回実施		
2	成長発達の原則、発育の評価					
3	乳児期の子どもの成長・発達と看護					
4						
5	幼児期の子どもの成長・発達と看護					
6						
7	日常生活援助の実際(食事、排泄、清潔)		演習はGWと発表を含む。			
8						
9	日常生活援助の実際(遊び) (3h)					
10	学童期の子どもの成長・発達と看護		講義を基本とし、授業内容によってGWを取り入れる。			
11	思春期・青年期の子どもの成長・発達と看護					
12	家族の特徴とアセスメント					
13	児童福祉、母子保健、医療費					
14	予防接種、学校保健、特別支援教育					
15	筆記試験 (1h)					
評価方法						
筆記試験 (80%) レポート (20%) (小テスト3回を含む)						
教科書						
系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 (電子教科書)						
参考図書・参考文献						
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1):小児の発達と看護 メディカ出版 2023						
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2):小児看護技術 メディカ出版 2023						
備考または学生への連絡						
<p>予習においては教科書の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習においては教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、ノートまとめを通して理解を深める。</p> <p>小児看護学は特有の知識が多いため、各分野ごとにまとめるようにして下さい。</p>						

小児看護学方法論 I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	専任教員/外部講師	有
科目のねらい				
健康を障害された子どもとその家族について学び、子どもとその家族を一つの単位として捉えることにより、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について学ぶ。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康を害することが子どもや家族にとってどのような体験なのかがわかる。</li> <li>健康障害を持つ子どもや家族への看護について、基本的な考え方や理論に基づき、実際に行われる看護がわかる。</li> </ul>				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	病期・障害を持つ子どもと家族の看護、 入院中の子どもと家族の看護		講義 (専任教員)	講義内容によって、 課題あり。
2	急性期にある子どもと家族の看護 (発熱、脱水、けいれん、呼吸困難、嘔吐・下痢、生命徴候が危険 な状況)		講義 (臨床看護師)	
3				
4	慢性期にある子どもと家族の看護		講義 (専任教員)	
5	検査や処置を受ける子どもと家族への看護、 周手術期の子どもと家族の看護、 被虐待児と家族への看護			
6				
7	終末期にある子どもと家族の看護			
8	筆記試験 (1h)			
評価方法				
筆記試験 (100%)				
教科書				
系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 (電子教科書) 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護 メディカ出版 2023 ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術 メディカ出版 2023				
備考または学生への連絡				
予習においては教科書の該当ページを熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習においては教科書、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、ノートまとめを通して理解を深める。				

小児看護学方法論Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次後期	外部講師	有
科目のねらい				
子どもの身体のしくみと生理の特徴を捉えながら、小児期に多い健康障害（疾病）と症状および治療について学ぶ。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの身体的・生理的特徴を捉え、主な小児疾患の病態生理および症状、治療が理解できる。</li> <li>子どもの発達障害と起こりやすい健康問題が理解できる。</li> </ul>				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護（先天異常、染色体異常、遺伝カウンセリング） 新生児の身体的・生理的特徴と新生児の疾患（新生児仮死、RDS、新生児黄疸）		講義 教本①	講師により指示があった場合、学習課題あり
2	子どもの身体的・生理的特徴と感染症（ウイルス感染、細菌感染）			
3	子どもの消化器の特徴と消化器疾患			
4	（上部消化管疾患、下部消化管疾患、肝臓・胆道疾患）			
5	子どもの呼吸器の特徴と呼吸器疾患（上気道の疾患、気管支・肺・胸膜疾患）			
6	子どもの循環器の特徴と循環器疾患（先天性心疾患、その他循環器疾患）			
7	子どもの内分泌系の特徴と代謝性疾患（糖尿病）、内分泌疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺疾患、副腎疾患、性腺の異常）			
8	子どもの免疫系の特徴と免疫疾患（若年性突発性感染症）、アレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー）			
9	子どもの腎・泌尿器の特徴と腎・泌尿器疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、水腎症、尿路感染症）			
10	子どものがんの特徴と腫瘍疾患（小児がん総論、神経芽腫）、			
11	血液疾患（貧血、出血性疾患、白血病、悪性リンパ腫）			
12	子どもの脳神経系の特徴と神経疾患（先天異常、脳性麻痺、急性神経疾患、筋疾患）			
13	子どもの精神の特徴と神経疾患（発達障害、神経症圏の疾患、不登校）			
14	子どもの事故・外傷の特徴と救命救急（主な事故・外傷と処置、救急救命法）、児童虐待		教本①② 演習あり	
15	筆記試験 2 回 (2h)			
評価方法				
筆記試験（100%）2 回				
教科書				
①系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院（電子教科書）				
②系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1) 小児の発達と看護 メディカ出版 2023				
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術 メディカ出版 2023				
備考または学生への連絡				
小児看護において疾患の病態、症状、治療の理解は重要となる。疾患の特徴および、治療上の注意点について理解できるように予習復習を含め、ノートまとめを行いながら学習する。				

小児看護学方法論Ⅲ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	3 年次前期	専任教員/外部講師		
科目のねらい					
健康を障害された子どもとその家族を理解し、子どもに安全で安楽なケアを提供するための科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる年齢、健康レベルにある子どもが主体となって、治療、検査、処置に取り組むための看護を学ぶ。</li> <li>子どもの最善の利益、倫理的配慮に基づいた看護の実践が分かる。</li> <li>健康障害をもつ子どもとその家族の看護援助を、理論に基づき考えられる。</li> </ul>					
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	外来における子どもと家族への看護、在宅における子どもと家族への看護		講義① (専任教員)	授業内容により、事前、事後課題あり。	
2	災害を受けた子どもと家族への看護(1h)				
3	アレルギー疾患の子どもと家族への看護				
4	ハイリスク新生児と家族への看護		講義② (臨床看護師)		
5	消化器疾患をもつ子どもと家族への看護		講義① (専任教員)		
6	悪性新生物をもつ子どもと家族への看護				
7	腎疾患をもつ子どもと家族への看護				
8	神経疾患をもつ子どもと家族への看護				
9	呼吸・循環を整える技術 (酸素療法、鼻口腔内吸引、吸入、体位ドレナージ、体温の調整)		講義② (臨床看護師)		
10	与薬の技術 (与薬に必要な基礎知識、経口薬、坐薬、注射、輸液管理)				
11	症状・生体機能の管理技術 (バイタルサインの測定、検体の採取、検査、身体計測)				
12	プリパレーションの基礎知識とその実際		講義① (専任教員)		
13	事例展開：川崎病の子どもと家族への看護		演習 (専任教員)		事例課題
14	事例展開：川崎病の子どもと家族への看護				
15	事例展開：川崎病の子どもと家族への看護				
16	筆記試験(1h)				
評価方法					
筆記試験(80%)、事例課題(20%) / 『ハイリスク新生児と家族への看護』は筆記試験除外					
教科書					
系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 (電子教科書) 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1): 小児の発達と看護 メディカ出版 2023 ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2): 小児看護技術 メディカ出版 2023 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 2020					
備考または学生への連絡					
課題に積極的に取り組み、小児看護学実習へつながるよう文献活用をしながら、知識の習得をめざすこと。					

母性看護学概論				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
女性のライフサイクルにおける性と生殖の側面からみた健康課題について、多様な価値観を考慮した看護を考える視点を学ぶ。また、「生命と人権」、「いのちの誕生」、「性と生殖に関する健康と権利」を尊重した看護実践につながるよう、その基盤を学習し考える機会とする。				
授業の目標				
1. 母性看護の対象への統合的な理解につなげるため、その基盤となる概念を学ぶ。 2. 母性看護の対象への社会資源を考慮した看護につなげるため、母子を取り巻く社会の変遷と現状を学ぶ。 3. 母性看護の対象への倫理的な判断につなげるため、生命の尊厳および母子を多様な価値観から理解する。 4. 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題とその看護の概要を学ぶ。				
DP との対応	◎	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	○ 倫理的姿勢
		課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	母性看護の対象と基盤となる概念 (母親になること、愛着、ボンディングと親子相互作用、女性を中心としたケア、家族を中心としたケア)		講義 教科書①1章	授業内容により、レポート課題等の提示をする
2	リプロダクティブヘルスに関する概念、母性看護に必要な看護技術		講義 教科書①1章, 4章	
3	生殖に関する生理 (ヒトの発生・性分化 第二性徴 性周期 性機能の発達 妊娠のメカニズム)		講義 教科書①3章	
4	セクシャリティとジェンダー、母性の発達・成熟・継承		講義 教科書①1章、3章	
5	女性のライフステージ各期における看護 [1] 思春期女性の課題と看護		講義 教科書①3章	
6	女性のライフステージ各期における看護 [2] 性成熟期女性の健康と看護		講義 教科書①3章	
7	女性のライフステージ各期における看護 [3] 更年期・老年期女性の健康と看護		講義 教科書①3章	
8	リプロダクティブヘルスケア [1] 性感染症とその予防、人工妊娠中絶、家族計画		講義 教科書①6章	
9	リプロダクティブヘルスケア [2] 不妊、性暴力、児童虐待、喫煙、国際化		講義 教科書②2章、①6章	
10	母性看護にかかわる指標とその推移		講義 教科書①2章	
11	母性看護にかかわる法律と施策		講義 教科書①2章	
12	いのちの誕生をめぐるグループ討議①		演習	
13	いのちの誕生をめぐるグループ討議②		演習	
14	いのちの誕生をめぐるグループ討議、発表		演習	
15	まとめ		講義	
評価方法				
レポート・演習発表 20% 筆記試験 80%				
教科書				
① 統看護学講座 専門分野 母性看護学1, 母性看護学概論, 医学書院。(電子教科書) ② 統看護学講座 専門分野 母性看護学2, 母性看護学各論, 医学書院。(電子教科書)				
参考図書・参考文献				
公衆衛生がみえる, メディックメディア. その他 初回オリエンテーション時およびそのつど提示、または適宜資料を配布する。				
備考または学生への連絡				
母性看護学は女性の生涯を通じた健康支援に関与する学問です。当科目に続く母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと、関連性・連続性を持って授業内容の理解を深めることを期待します。				

母性看護学方法論 I					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年次後期	外部講師	有	
科目のねらい					
女性のライフサイクルの周産期に焦点をあて、正常な妊娠の成立から産褥までの生理的变化と健康問題を理解し、周産期のケアに必要な援助について学ぶ。					
授業の目標					
1. 周産期にある妊産褥婦の身体的・心理的・社会的特徴の正常な経過および健康問題が理解できる。 2. 周産期にある妊産褥婦と、取り巻く家族に必要な看護が理解できる。					
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢	
回	授業内容		授業方法	担当	
1	妊娠期の看護 [1] 身体的・心理的・社会的特徴		講義 教科書②3章	助産師	
2	妊娠期の看護 [2] 妊婦と胎児のアセスメント		講義 教科書②3章		
3	妊娠期の看護 [3] 妊婦と家族への看護		講義 教科書②3章		
4	妊娠期の看護 [4] ハイリスク妊婦の看護 (高年妊婦、若年妊婦、肥満・過剰体重増加妊婦、ART 後の妊婦の看護、糖代謝異常合併妊娠、妊娠高血圧症候群、切迫流・早産の看護、多胎妊娠、その他の問題)		講義 教科書②3章、7章		
5	分娩期の看護 [1] 分娩の要素・分娩の経過、		講義 教科書②3章		
6	分娩期の看護 [2] 産婦・胎児・家族のアセスメント		講義 教科書②3章		
7	分娩期の看護 [3] 分娩期の看護の実際・産婦と家族への看護		講義 教科書②3章		
8	分娩期の看護 [4] 異常のある産婦の看護 (破水が生じた妊婦、分娩遷延リスクのある産婦、胎児機能不全リスクのある産婦、帝王切開術を受ける産婦、急速遂娩を受ける産婦、分娩時異常出血のある産婦)		講義 教科書②3章、7章		
9	産褥期の看護 [1] 産褥経過 褥婦のアセスメント		講義 教科書②3章		
10	産褥期の看護 [2] 褥婦と家族への看護 施設退院後の看護		講義 教科書②3章		
11	産褥期の看護 [3] 異常のある褥婦の看護 (子宮復古不全、産褥期の発熱、異常のある褥婦：感染症を有する褥婦、乳房トラブル、本人・児に健康上の問題がある褥婦、育児の困難さをかかえる母親、児を失くした褥婦・家族の看護、メンタルヘルスの問題を抱える母親)		講義 教科書②3章、7章		
12	妊娠の異常 (ハイリスク妊娠、感染症、妊娠疾患：妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠悪阻、多胎、妊娠持続期間の異常：流産・早産、切迫早産、異所性妊娠、高齢妊娠・若年妊娠)		講義 教科書②7章		医師
13	分娩の異常 (産道の異常、娩出力の異常：微弱陣痛、過強陣痛、胎児の異常による分娩障害、胎児付属物の異常：常位胎盤早期剥離、前置胎盤、前期破水、胎児機能不全、分娩時異常出血、胎児機能不全、産科処置と産科手術：分娩誘発、会陰切開、帝王切開)		講義 教科書②7章		
14	産褥の異常 (子宮復古不全、産褥期の発熱：産褥熱、創部感染、泌尿器感染症、乳腺炎、産後精神障害)		講義 教科書②7章		
15	試験 (1h×2回)				
評価方法					
筆記試験 (100%) 2回					
教科書					
① 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論、医学書院。(電子教科書) ② 根拠がわかる母性看護技術、南江堂、2024.					
参考図書・参考文献					
病気がみえる vol.10 産科、メディックメディア。ほか、随時紹介する。					
備考または学生への連絡					
妊娠・分娩・産褥は連続し、かつ非妊時からの健康もその経過に影響し、さらに新生児の健康にも影響します。そのため、母性看護学概論・方法論Ⅱ・Ⅲと連続性・関連性を念頭に学習に臨んで下さい。					

母性看護学方法論Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
<p>出生は胎児から新生児へ、すなわち子宮内生活から子宮外生活（胎外生活、胎外環境）への大きな変化である。この講義では、新生児が子宮外生活にどのように適応していくのかを理解し、アセスメントとケアに必要な知識を学ぶ。さらに、新生児に起こりやすい病態を理解し、新生児のハイリスク因子のアセスメントに必要な知識を学ぶ。</p>				
授業の目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の子宮内生活から子宮外生活（胎外生活、胎外環境）への適応生理を理解する。</li> <li>2. 新生児が子宮内生活から子宮外生活へ適応する時期に起こりやすい病態とその看護を理解する。</li> <li>3. 新生児の出生直後および出生後 24 時間以降から退院時、一カ月健診までのアセスメントとケアを理解する。</li> </ol>				
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	新生児期とは 定義・分類・体格・姿勢 新生児の機能〔1〕 子宮外適応現象		講義 教科書①5章 教科書②	随時提示する
2	新生児の機能〔2〕 呼吸、循環、体温、消化と吸収 ビリルビン代謝と生理的黄疸、腎機能、免疫、皮膚		講義 教科書①5章, 7章 教科書②	
3	新生児の機能〔3〕 反射、感覚機能 新生児のアセスメント〔1〕 新生児の診断（ハイリスク新生児、出生直後の評価、発育の評価、成熟度の評価、外表所見の評価）		講義 教科書①5章 教科書②	
4	新生児のアセスメント〔2〕 新生児の診断（新生児の行動の評価、親子関係の評価） 新生児の健康状態のアセスメント〔1〕 基礎的情報の収集		講義 教科書①5章, 7章 教科書②	
5	新生児の健康状態のアセスメント〔2〕 子宮外生活への適応状態のアセスメント 新生児の異常と看護		講義 教科書①5章 教科書②	
6	新生児の健康状態のアセスメント〔3〕 新生児の生活のアセスメント 新生児の看護〔1〕 出生直後の看護		講義 教科書①5章, 7章 教科書②	
7	新生児の看護〔2〕 出生後から退院時までの看護 生後1カ月健診に向けた退院時の看護		講義 教科書①5章, 7章 教科書②	
評価方法				
筆記試験（100%）1回				
教科書				
① 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2, 母性看護学各論, 医学書院. (電子教科書)				
② 根拠がわかる母性看護技術, 南江堂.				
参考図書・参考文献				
病気がみえる vol.10 産科, メディックメディア. その他、随時紹介する。				
備考または学生への連絡				
新生児の経過は母親の妊娠・分娩の経過に連続し、かつ母親の非妊時からの健康もその経過に影響するので、母性看護学方法論Ⅰとの連続性・関連性を念頭に学習に臨んで下さい。				

母性看護学方法論Ⅲ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	3 年次前期	専任教員	有
科目のねらい				
母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を活用し、正常な経過をたどる周産期母子事例の看護過程と母性看護の実践に必要な知識・技術を学ぶ。				
授業の目標				
1. 妊婦のヘルスアセスメントに必要な技術を理解し、実施できる。 2. 新生児の日常生活を支えるために必要な援助を理解し、実施できる。 3. 褥婦の退行性変化と進行性変化を促すための技術を理解し、実施できる。 4. 母子の看護過程に必要な知識と方法が理解できる。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	母性看護における看護過程(母性看護とウェルネス志向) 新生児のアセスメントとケア		講義、視聴覚教材 技術演習 教科書②③	演習技術に必要な 課題内容を自己学習 ノートにまとめる
2	妊婦のヘルスアセスメントに必要な技術			
3	新生児の観察と沐浴			
4	褥婦の退行性変化と進行性変化の観察		技術演習	
5	新生児の沐浴、			
6	新生児の沐浴			
7	小テスト/事例展開オリエンテーション		講義 個人ワーク グループワーク 教科書②③	母性看護学実習記 録を使用して紙上 事例展開          レポート提出
8	事例展開			
9	事例展開			
10	事例展開			
11	事例展開			
12	事例展開			
13	事例展開			
14	事例展開			
15	事例展開 発表・まとめ			
評価方法				
筆記試験 (60%) 1回 レポート (40%)				
教科書				
① 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2,母性看護学各論, 医学書院 (電子教科書). ② 根拠がわかる母性看護技術, 南江堂, 2024. ③ 根拠がわかる母性看護過程, 南江堂, 2018.				
参考図書・参考文献				
病気がみえる vol.10 産科, メディックメディア. ほか、随時紹介する。				
備考または学生への連絡				
新生児の経過は母親の妊娠・分娩の経過に連続し、かつ母親の非妊時からの健康もその経過に影響するので、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱとの連続性・関連性を念頭に学習に臨んで下さい。				

精神看護学概論						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	30 時間	2 年次前期	専任教員	有		
科目のねらい						
精神看護の基本となる人間理解を目的として、人格の発達過程、人の心理・行動の特性を理解し、健康な生き方とは何かについて考えるとともに、精神保健福祉上の問題が生活と生き方に与える影響を理解し基本的な関わり方を学ぶ。また、精神医療に関わる歴史的背景、人権擁護、倫理について学ぶ。						
授業の目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の健康とは何かを理解し、心の発達過程について理解できる。</li> <li>・心の健康に影響を及ぼす要因と対処法について理解できる。</li> <li>・自己理解を深め、対人関係における自己の傾向について理解できる。</li> <li>・精神障害者の生活と社会参加についてノーマライゼーションの視点から考えられる。</li> <li>・精神医療の歴史と課題、法制度について理解できる。</li> </ul>						
DP との対応	<input checked="" type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題		
1	関係のなかの人間		講義 視覚教材 グループワーク	講義内容に応じて確認試験を提示することあり		
2	社会の中の精神障害					
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害と治療の歴史・日本における精神医療の流れ</li> <li>・精神障害と文化・精神障害と法制度</li> </ul>					
4	ケアの人間関係					
5	回復を支援する					
6	地域におけるケアと支援					
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の捉え方・地域における生活支援の方法</li> <li>・地域におけるケアの方法と実際</li> </ul>					
8	入院治療の意味					
9	身体をケアする					
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科における身体ケア・身体合併症のアセスメントとケア</li> </ul>					
11	安全を守る					
12	身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス リエゾン精神看護とその活動					
13	リエゾナーズの活動の実際 看護師のメンタルヘルスへの支援					
14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス					
15	精神看護学概論まとめ、試験					
評価方法						
筆記試験 (100%)						
教科書						
系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 (電子教科書)						
系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 (電子教科書)						
参考図書・参考文献						
必要時提示します						
備考または学生への連絡						
精神看護に関することについてイメージができるよう視覚教材を活用していきます。講義内容について理解できない部分、疑問に感じる部分は積極的に質問してください。						

精神看護学方法論 I					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	2 年次前期	大杉 ユリ子	有	
科目のねらい					
人間の心のはたらきを理解し、各ライフステージにおける心の成長発達について学習します。 また、精神の健康保持増進を図るために必要な知識を持ち、コミュニティーにおける精神保健・精神看護の充実のための学びを深めることをねらいとします。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者を理解し、支援していくために必要な「自己理解」・「人との向き合い方」・「傾聴」・「自己表現」などを理解する。</li> <li>・人間関係・コミュニケーション能力向上に関する知識を得て、危機介入に至るまでを具体的に考える。</li> </ul>					
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	第1章:精神看護学で学ぶこと① エネルギーと感情の関係①		講義	資料・自己問題検討	
2	第1章:精神看護学で学ぶこと② 第2章:精神保健の考え方① エネルギーと感情の関係② 人間の捉え方考察		講義		
3	第2章:精神保健の考え方② 年代差についての考察		講義		
4	第2章:精神保健の考え方③ 受容の理解		講義		
5	第3章:心のはたらきと人格の形成① 傾聴学習①		講義		
6	第3章:心のはたらきと人格の形成② 傾聴学習②		講義		
7	第3章:心のはたらきと人格の形成③ 愛着理論		講義		
8	第3章:心のはたらきと人格の形成③ アサーショントレーニング①		講義		
9	アサーショントレーニング②		講義・実習		
10	第10章:E. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 うつの理解		講義		
11	第10章:D. 学校におけるメンタルヘルスと看護 緊急支援		講義		
12	不登校の理解・対応 VTR 視聴		講義・VTR		
13	第15章:災害時のメンタルヘルスと看護① 緊急支援		講義・VTR		
14	第15章:災害時のメンタルヘルスと看護② リラクゼーション・リフレーミング		講義・実習		
15	虐待・筆記試験		講義・試験		
評価方法					
試験（最終回に45分間の筆記試験）・出席状況による評価					
教科書					
系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院（電子教科書） 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院（電子教科書）					
参考図書・参考文献					
参考図書は講義中に適宜紹介 資料はその都度配布					
備考または学生への連絡					
実習活動には積極的に参加すること					

精神看護学方法論Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	30 時間	2 年次後期	外部講師	有
科目のねらい				
精神科診断学と精神症状論を学び、主要な精神疾患の病態像や症状、さらには標準的な精神科治療である精神療法、薬物療法、電気けいれん療法(m-ECT)について理解するとともに、精神疾患患者への看護の実際について学び、精神障害をもつ対象への支援、援助について理解する。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な精神疾患における病態像や症状をとらえ、適切な看護に繋がられるよう理解する。</li> <li>・精神科薬物療法の作用機序を理解し、効果や副作用をアセスメントできるようになる。</li> <li>・精神療法の手法を学び、患者とのコミュニケーションに反映できるようになる。</li> <li>・精神科における看護の役割を理解できる</li> <li>・精神疾患患者の看護について理解できる</li> </ul>				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	<input checked="" type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	診断と疾病分類、フロイト：自我と防衛機制、精神症状論、精神治療総論		講義	小テスト
2	統合失調症、気分(感情)障害			
3	不安障害群、強迫性障害、ストレス障害、適応障害			
4	ヒステリー、心身症、摂食障害、パーソナリティ障害、てんかん			
5	睡眠障害、性別違和・性別不合、症状精神病、周産期にあれわれやすい不調、認知症			
6	アディクション(嗜癖・依存)、精神発達障害 治療①：精神療法 治療②：薬物療法			
7	治療③：電気けいれん療法 (m-ECT) 精神科における治療まとめ			
8	精神看護における倫理的配慮、精神看護と精神保健福祉法		講義 演習 視覚教材	学習資料
9	精神科における看護について			
10	統合失調症：疾患別看護			
11	気分(感情)障害：疾患別看護、地域でのセーフティーネット			
12	パーソナリティ障害、認知症：疾患別看護			
13	アルコール依存症：疾患別看護 入院～地域での支援の実際			
14	ストレスマネジメント			
15	試験			
評価方法				
筆記試験 (100%) 2 回				
教科書				
系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
参考図書は講義中に適宜紹介 資料はその都度配布				
備考または学生への連絡				
高齢化社会に伴い、身体疾患と精神疾患を併発している患者が増加しています。精神科のみならず、一般診療科でも精神疾患の基礎知識は必要となっておりますので、皆さんが能動的かつインタラクティブに楽しんで授業に臨んで下さることを期待します。				

精神看護学方法論Ⅲ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次前期	外部講師・専任教員	有
科目のねらい				
精神障害をもつ対象への支援、援助について学び、精神保健・医療・福祉の連携、地域で生活する精神障害者への具体的な支援について学ぶ。また、精神障害をもつ対象に対する看護過程の展開方法を理解する。				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科リハビリテーションについて理解できる</li> <li>・地域における精神障害者への支援、それを支える法的基盤、多職種連携について理解できる</li> <li>・精神疾患・症状を有する対象の事例を通して、健康レベルをアセスメントする技術と必要な看護ケアの方法を理解できる</li> <li>・当事者主体の看護の重要性および、家族への看護援助について理解できる</li> <li>・看護場を再構築し、自己洞察の視点で振り返ることができる</li> </ul>				
DP との対応	○	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	精神科におけるリハビリテーション		講義 教科書①②	資料
2	社会生活機能訓練(SST)、集団認知行動療法			
3	地域で精神障害者を支援するための方法			
4	事例に学ぶ精神科看護の実際、プロセスレコードの活用方法		講義 グループワーク 視覚教材 教科書①②	レポート課題
5	事例展開			
6	事例展開			
7	事例展開 発表・まとめ			
評価方法				
筆記試験(40%)・事例展開の取り組み状況およびレポート評価(60%)				
教科書				
系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院(電子教科書) 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院(電子教科書)				
参考図書・参考文献				
資料はその都度配布				
備考または学生への連絡				
現役の精神保健福祉士、精神看護学担当教員が分担して講義を行います。実際に臨床や地域で展開されている精神保健福祉領域の支援、看護について学べる機会になりますので、積極的に講義、グループワークに参加してください。				

医療安全					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	2 年次前期	専任教員	有	
科目のねらい					
医療・看護における安全を保障するセーフティマネジメントの視点から、今日の医療現場で起きている事故などの事象を踏まえ、安全を阻害する要因やその対処・予防方法を学ぶ。					
授業の目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全の基本的な知識を理解する。</li> <li>・安全で質の高い看護実践を提供するために、ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策を理解する。</li> <li>・医療事故・インシデントレポートの意味と必要性について理解する。</li> </ul>					
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力		より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力		保健医療福祉チームにおける連携力	主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	医療安全対策の国内外の潮流・組織的な安全管理体制への取り組み 医療安全と看護の責務（法的責任）		講義		
2	医療事故のメカニズムと構造 事故防止の考え方		講義		
3	診療の補助の事故防止（Ⅰ）患者に投与する業務における事故防止		講義		
4	診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理 における事故防止		講義		
5	療養上の世話の事故防止 医療事故例・ヒヤリハット事例の分析方法		講義		
6	日常の療養場面における医療事故などの防止対策 診療の補助の場面における医療事故などの防止対策		グループワーク	レポート提出	
7	看護師の労働安全衛生上の事故防止・業務領域をこえて共通する間 違いと発生要因・医療安全とコミュニケーション		講義		
評価方法					
筆記試験 100%					
教科書					
系統看護学講座 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院（電子教科書）					
参考図書・参考文献					
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院（電子教科書）					
備考または学生への連絡					
本科目では、基礎知識と技術を統合させることにより、臨床に近い形での学習法から医療安全についての基本を学ぶことを期待します。					

看護研究 I					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	2 年後期	専任教員	有	
科目のねらい					
看護における研究の意義と方法を学び、研究のプロセスを通し研究的態度を養う。					
授業の目標					
1. 看護研究のあり方、および基礎的な知識とそのプロセスを理解する。 2. 看護研究に関する知識を活用し、看護領域における問題意識を研究テーマへ発展させ、研究計画書作成までのプロセスを学習する。					
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="checkbox"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="checkbox"/> 倫理的姿勢
	<input type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input checked="" type="checkbox"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	看護研究講義オリエンテーション 看護研究を学ぶ前に、看護研究とは		講義を基本とし、授業内容によってグループワークを取り入れる。	授業内容により課題あり。	
2	看護研究の始め方—リサーチクエスチョンを立てる				
3	文献、文献検索の方法、文献の読み方				
4	研究における倫理的配慮				
5	研究デザイン、質的研究・量的研究				
6	データの収集、データの分析				
7	研究計画書の作成、研究成果をまとめる、研究を伝える(1h)				
8	北海道看護協会道南南支部研究発表会参加予定 (1h)				
9	筆記試験(1h)				
評価方法					
筆記試験 60%、課題・レポート 40%					
教科書					
系統看護学講義 別巻 看護研究 医学書院 (電子教科書)					
参考図書・参考文献					
授業の中で紹介予定。					
備考または学生への連絡					
看護研究の重要性を理解し、研究の進め方に必要な基礎的な知識を身につけていきます。看護研究は看護の質の維持・向上につながるものであり、様々な看護実践の場でも取り込まれています。看護現象に疑問を持ち、問題を解決するために系統的に探究していく能力とともに、主体的に学習する姿勢および思考や情報を整理し文章化する能力が求められます。研究的関心を持ち、意欲的に取り組むことを期待します。					

看護研究Ⅱ				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次通年	専任教員	有
科目のねらい				
看護における研究の意義と方法を学び、研究のプロセスを通し研究的態度を養う。				
授業の目標				
1. 看護研究に関する知識を活用し、看護領域における問題意識を研究テーマへ発展させ、研究計画書作成までのプロセスを学習する。 (1) 講義、演習ならびに実習の体験等から探究したい関心領域を見出す。 (2) 見出した関心領域について、研究の可能性等を見極めて研究テーマを絞り込む。 (3) 研究テーマに関連した文献を検討し、研究のテーマを明らかにする。 (4) 研究目的に適した研究方法を選択する。 (5) 指定の構成内容や様式を満たした看護研究計画書を作成する。 2. 全プロセスを通して看護を探究し、研究的思考・態度について学ぶ。				
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/> 倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	<input checked="" type="radio"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	演習オリエンテーション（看護研究の実際）（1h） 看護研究計画書の作成、演習全体について		講義	研究計画書作成
2	看護研究計画書作成演習 1 研究テーマの検討、研究の動機と意義、研究目的の設定		ゼミナール方式での演習	
3	看護研究計画書作成演習 2 研究テーマの検討、研究の動機と意義、研究目的の設定			
4	看護研究計画書作成演習 3 研究テーマの検討、研究の動機と意義、研究目的の設定			
5	看護研究計画書作成演習 4	研究方法の検討		
6	看護研究計画書作成演習 5	研究方法の検討・倫理的配慮		
7	看護研究計画書作成演習 6	研究計画書全体の検討		
8	看護研究計画書作成演習 7	全体発表		
評価方法				
演習評価 80% 事後レポート 20%				
教科書				
系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				
看護研究の重要性を理解し、研究の進め方に必要な基礎的知識を身につけていきます。看護研究は看護の質の維持・向上につながるものであり、様々な看護実践の場でも取り組まれています。看護現象に疑問を持ち、問題を解決するために系統的に探究していく能力とともに、主体的に学習する姿勢および思考や情報を整理し文章化する能力が求められます。研究的関心を持ち、意欲的に取り組むことを期待します。				

看護管理				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	3 年次後期	外部講師	有
科目のねらい				
看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中における看護職の役割を理解する。				
授業の目標				
看護管理の定義、看護ケアおよび看護サービスのマネジメントの概要からそのあり方を理解する。				
DP との対応	看護の対象を統合的に捉える力		より良い人間関係を築く力	
	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	◎	保健医療福祉チームにおける連携力	○ 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	看護とマネジメント ・看護管理学とは ・看護におけるマネジメント		講義	
2	看護ケアのマネジメント ・看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ・患者の権利の尊重 ・安全管理 ・チーム医療 ・看護業務の実践（日常業務のマネジメント）			
3	看護職のキャリアマネジメント ・キャリアとキャリア形成 ・看護職のキャリア形成 ・看護専門職としての成長（社会化） ・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント			
4	看護サービスのマネジメント ・看護サービスのマネジメントの対象と範囲 ・組織目的達成のマネジメント ・看護サービス提供のしくみ			
5	人材、施設、設備環境のマネジメント ・物品、情報のマネジメント ・リスクマネジメント ・サービスの評価			
6	マネジメントに必要な知識と技術 ・マネジメントとは ・組織とマネジメント ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整			
7	看護を取り巻く諸制度 ・看護の定義 ・看護職 ・医療制度 ・看護政策と制度			
評価方法				
筆記試験（100%）				
教科書				
系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院（電子教科書）				
参考図書・参考文献				
備考または学生への連絡				

災害看護・国際看護						
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無		
1 単位	1 5 時間	3 年次後期	外部講師	有		
科目のねらい						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害という特殊な状況下での人々の生命や健康生活を支えるための基礎的知識を学ぶ。</li> <li>・看護活動の場としての国際看護の状況を理解する。</li> </ul>						
授業の目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に関する基本的知識を学習し、災害時における看護の役割と機能について理解する。</li> <li>・途上国を中心に世界の健康問題の現状と問題を解決するための対策を学ぶ。また、看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識を習得する。</li> </ul>						
DP との対応	<input type="radio"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="radio"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="radio"/>	倫理的姿勢
	<input type="radio"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input checked="" type="radio"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="radio"/>	主体的学修姿勢
回	授業内容			授業方法	学習課題	
1	災害看護	災害看護の基礎 ・災害看護の歴史的背景 ・災害・災害看護の定義 ・災害の種類による疾病構造の特徴 ・災害サイクル各期における特徴		講義、演習		
2		災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 ・国内外における災害関係機関（行政及び諸機関）の役割・支援体制 ・災害時要援護者への看護				
3		災害時の看護活動の実際と実践に必要な知識 ・災害が及ぼす被災者・援助者への心理的影響とところのケア				
4		・災害時に必要な技術 ・トリアージ法 ※演習：①トリアージ ②日常用品の活用（搬送、包帯法、関節固定）				
5	国際看護	国際看護に関連する基礎知識 ・グローバルヘルス ・看護師の国際組織と国際的な移動 ・文化を考慮した看護		講義		
6		国際協力の基礎知識 ・国際協力のしくみ ・開発協力と関連機関				
7		国際協力と看護 ・発展途上国と健康 ・国際救援と看護 ・わが国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践 ・在日外国人・在外日本人の保健医療 ・外国人技能実習生交流(厚生院施設)				
評価方法						
筆記試験 100%						
教科書						
系統看護学講座 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院（電子教科書）						
参考図書・参考文献						
備考または学生への連絡						

看護リフレクション I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
<p>体験を系統的に振り返り、次の実践につなげる思考過程であるリフレクションについて学ぶ。          これまでの臨地実習体験の意味付けと自己の課題の明確化を行い、今後の臨地実習につなげていくことを目指す。          以上より、疑問を自ら追求し、自己学習力をみにつける科目とする。</p>				
授業の目標				
<p>1. 臨地実習の体験をリフレクティブサイクルの枠組みを活用してリフレクションできる。          2. リフレクションを通して自己の課題と対応策を考えることができる。          3. 看護リフレクションの意義を理解することができる。</p>				
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	<input checked="" type="checkbox"/> 倫理的姿勢
	<input type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	<input type="checkbox"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	リフレクションとは何か 看護リフレクションの意義 リフレクションの分類（行為の中のリフレクション、行為についてのリフレクション） 心に残った実践を言葉にする意味		講義	
2	リフレクションの方法（文献活用の仕方を含む） リフレクティブサイクル リフレクションの実際①「臨地実習体験の描出」		講義 演習	課題レポート
3	リフレクションの実際②事例を語る 「看護を語る会」（グループワーク）		講義 演習	課題レポート
4	リフレクションの実際③ 「事例を探求的に振り返る」		講義 演習	課題レポート
5	リフレクションの実際④ 「事例のアウトカムを捉える」		講義 演習	課題レポート
6	リフレクションの実際⑤ 「現象の意味や価値を考える、また次の実践でどのように活用するのか考える」		講義 演習	課題レポート
7	リフレクションの実際⑥ 「発表」（学びを共有するグループワーク） / まとめ		講義 演習	最終レポート （取り組み、学んだことについて）
評価方法				
レポート・演習 100%				
教科書				
経験から学ぶ看護師を育てる看護リフレクション，医学書院，2022.				
参考図書・参考文献				
看護リフレクション入門，ライフサポート社，2009.				
備考または学生への連絡				
<p>看護実践の印象深い場面を思い出し、今後に向けて、より実践的で具体的な看護実践となるよう、自己のケアが患者にとってどのような意味があるのかを知るリフレクションについて学びます。これにより自己の学びを深めていく自己教育の姿勢を身につけていきます。看護師となる自分を見つめる機会にしていきたいと思います。</p>				

看護リフレクションⅡ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	1 5 時間	3 年次後期	専任教員	有	
科目のねらい					
実習科目を越え、部分的な知識を統合して理論的根拠に基づき理解に至る力を培う。これまでの知識と経験から、専門職として看護について、自ら追求し自己学習力をみにつける科目とする。					
授業の目標					
1. 既習のリフレクティブサイクルを活用し、リフレクションできる。 2. 印象深い看護実践場面から事例のアウトカムを捉えることができる。 3. 現象の意味や価値を考え、自己の看護観を述べるができる。					
DP との対応	<input type="checkbox"/>	看護の対象を統合的に捉える力	<input type="checkbox"/>	より良い人間関係を築く力	<input type="checkbox"/> 倫理的姿勢
	<input type="checkbox"/>	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	<input type="checkbox"/>	保健医療福祉チームにおける連携力	<input checked="" type="checkbox"/> 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題	
1	看護観とは、リフレクティブサイクルの想起、文献活用について		講義		
2	リフレクションの実際 「臨地実習体験の描出」 (個人ワーク)		演習	課題レポート	
3	リフレクションの実際 「事例を探求的に振り返る」 (個人ワーク)		演習	課題レポート	
4	リフレクションの実際 「事例のアウトカムを捉える」 (個人ワーク)		演習	課題レポート	
5	リフレクションの実際 「現象の意味や価値を考える～自己の看護観の明確化」 (個人ワーク)		演習	課題レポート	
6	リフレクションの実際 「自己の看護観の明確化～看護師としての自分」 (個人ワーク)		演習	課題レポート	
7	まとめ 「専門職として看護観を持つこと」		講義	最終レポート (取り組み、学んだことについて)	
評価方法					
レポート・演習 100%					
教科書					
なし					
参考図書・参考文献					
備考または学生への連絡					
既習のリフレクティブサイクルを活用し、実習での印象深い場面より、今後に向けて看護観を明確にできるよう、自己学習を深めることを目指します。それにより、専門職業人として、看護の質向上を目指し研鑽しつづける姿勢をみにつけていきます。					

看護技術の総合評価 I				
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無
1 単位	1 5 時間	2 年次後期	専任教員	有
科目のねらい				
より臨床に近い形での学習を通して、各分野で学んだ知識・技術を統合し、総合的な判断・対応を学ぶ。				
授業の目標				
既習の知識をもとに患者の状態・状況に応じて判断し、確実に援助を実施できる				
1. 事例の情報から患者像をイメージし、援助に必要な内容について学習できる				
2. 学習した内容を活用し、指定された技術について援助計画を立案できる				
3. 看護実践における倫理的態度について実践できる				
4. 患者の状態・状況を考慮しながら指定された援助を実施できる				
5. 一連のプロセスを振り返り、自己の課題を明確にすることができる				
DP との対応		看護の対象を統合的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	○ 主体的学修姿勢
回	授業内容		授業方法	学習課題
1	講義全体の方法について、グループワーク		講義	事前レポート作成
2	事例について、個人ワーク・グループワーク		演習	
3				
4	筆記試験 (1 時限)			
5	筆記試験返却、結果の解説 技術練習		講義・グループ演習	
6	技術練習		グループ演習	事前レポート提出
7				
8	技術試験			振り返りレポート
評価方法				
筆記試験(30 点) 技術試験(60 点) 事前レポート(8 点) 振り返りレポート(2 点)				
教科書				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院 (電子教科書)				
系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 (電子教科書)				
参考図書・参考文献				
今日の治療薬 南江堂				
看護がみえる Vol.1 基礎看護技術、看護がみえる Vol103 フィジカルアセスメント メデックメディア				
疾患別看護過程の展開 学研				
看護過程に沿った対症看護 学研				
備考または学生への連絡				
*一連のプロセスは各自責任をもって主体的に進めること				
*提出物の期限が確実に守れるよう、計画的に進めること				

看護技術の総合評価Ⅱ					
単位数	時間数	開講年次	講師名	実務経験の有無	
1 単位	30 時間	3 年次後期	専任教員	有	
科目のねらい					
統合実習の前には、複数の患者に対して必要な援助内容など具体的な動きをイメージでき、一日の行動計画を立案する中で、次の視点を身につける。(①時間管理の意識 ②援助の優先順位 ③安全・安楽 ④アセスメント ⑤自己課題の明確化)そして、これまでの学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに行えるよう必要な知識・技術を学ぶ。統合実習の後には、統合実習の学びを通じて自己の看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。					
授業の目標					
1. 統合実習に必要な知識・技術が習得できる。 ①多重課題に対して起こり得ることを予測した援助方法が判断できる。 ②対象に必要な援助の優先順位を状況に応じて決定および修正ができ、行動計画が立案できる。 ③状況に応じた対処方法について、自己の課題を明確にできる。 2. 看護技術の卒業時到達度、自己の看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題が明確にできる。					
DP との対応		看護の対象を統一的に捉える力	より良い人間関係を築く力	倫理的姿勢	
	◎	課題解決能力、根拠に基づいた実践力	保健医療福祉チームにおける連携力	○ 主体的学修姿勢	
回	授業内容			授業方法	学習課題
1	・導入 ①看護技術経験録の整理 ②卒業時看護技術到達度評価			講義	随時提示 する
2	・1日の業務の組み立て方 ・優先順位の決定と多重課題への対応 ・タイムマネジメント ・間違いを誘発する負荷状況				
3	・複数の受け持ち患者に対する日勤帯のタイムテーブル作成と観察内容についての学習(個人ワーク) (事例)・成人あるいは老年期の患者2名 ・急性症状を呈する患者およびセルフケア不足の患者 ・診療の補助技術と日常生活援助技術との組み合わせ				
4	・複数の受け持ち患者に対する日勤帯のタイムテーブル作成(グループワーク・発表)			グループ ワーク	
5	・チーム医療におけるコミュニケーション、報告について ・起こりうる危険の予測と回避行動 ・予測される多重課題についての検討			演習	
6	・作成したタイムテーブルに割り込み状況が発生した場合の対処方法の検討① (多重課題シミュレーション:状況のアセスメント、優先順位の決定)				
7	・作成したタイムテーブルに割り込み状況が発生した場合の対処方法の検討② (多重課題シミュレーション:状況のアセスメント、優先順位の決定)			講義	
8	・夜間業務の特徴 ・セルフマネジメントについて ・自己の課題の明確化(状況に応じた対処方法について)*課題レポート①				
9	・統合実習の学びの共有 ・自己の課題に対する評価 ・看護技術経験録を基に、看護技術の復習の計画を検討する			グループ ワーク	
10	・看護技術の復習①【診療の補助技術】			演習	
11	・看護技術の復習②【診療の補助技術】				
12	・看護技術の復習③【診療の補助技術】				
13	・看護技術の復習④【対象に合わせた日常生活援助】				
14	・看護技術の復習⑤【対象に合わせた日常生活援助】				
15	・卒業時の看護技術到達度の評価 ・看護技術経験録の整理 ・自己の課題の明確化 *課題レポート②			講義	
評価方法					
筆記試験 70%、演習 30% (課題レポート①②各 10%、グループワークの取り組み状況・その他の提出物 10%)					
教科書					
系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院(電子教科書) 系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院(電子教科書) 系統看護学講座 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院(電子教科書)					
参考図書・参考文献					
看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 2023、看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 2023 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 2023					
備考または学生への連絡					
前半は統合実習で必要な知識・技術について学び、後半は看護技術の総復習を行い自己の課題を明確にしていきます。専用のファイルを準備し、講義資料や課題を整理して下さい。					